

事務局長 鈴木 秀 人 (羽水高校)

1. 第1回役員会

平成31年4月25日(木)、福井県国際交流会館で平成30年度会計監査および平成31年度第1回役員会を開催し、総会に提案すべき議事を審議しました。

2. 総会・講演会

令和元年6月7日(金)、ユーアイふくい多目的ホールで福井県英語研究会総会および講演会を開催しました。議長は進士祐介先生(高志高校)が務められ、全ての議案が承認を得ました。

その後、本会発展のために永年御貢献いただいた、水谷善長先生(前英研副会長・武生第一中学校長)、勝木博一先生(前副会長・武生東高校長)、高木裕代先生(前研究部リーディングテスト委員長・福井市教育委員会)、森本浩司先生(元研究部長・藤島高校教諭)に感謝状が贈呈されました。

総会終了後、神田外語大学 英米語学科 専任講師 柴原 智幸 先生をお招きし、「知的世界を広げるツールとしての英語、英語教育」と題して御講演をいただき、先生の豊富なご経験をもとに、我々の英語教育に対するヒントを沢山頂きました。

3. 会員名簿発行

令和元年7月、令和元年度会員名簿を発行しました。22年度から会員名簿作成業務を広報部にお願しておりますが、28年度より小学校の英語活動担当者も掲載しています。年度当初の大変忙しい時期に御尽力頂いた稲葉広報部長をはじめ、広報部には深く感謝申し上げます。

4. 全英連大会

第69回全国英語教育研究大会(全英連三重大会)は、「サミット開催の地 三重から発信!～校種間の学びの系統性を意識した英語教育～」を大会コンセプトとして、令和元年11月8日(金)・9日(土)に開催されました。1日目は三重県総合文化センターの大ホールを会場として、総会、敬愛大学 向後秀明氏を招いて、演題:「The Critical Role of the Teacher in Moving Forward with the New Courses of Study」での講演会、昼食後、小学校・中学校・高等学校それぞれの授業実演が行われました。2日目は同センターの各施設を会場として、30の分科会が開催されました。本県からは、金津中学校の吉村美幸先生と高志高校の吉田充宏先生が、それぞれ分科会で発表をされました。また県英研からは、田中宏明会長、永田乃理子先生(企画部)、山本美好先生(事務局)が参加しました。

5. 令和元年度福井県英語教育研究大会

- (1) 主 催 福井県中教研英語部会・福井県高教研英語部会・福井県英語研究会
- (2) 日 時 令和元年10月29日(火)

- (3) 会 場 坂井市立三国中学校
- (4) 研究主題 「自分の考えや気持ちを伝えあう生徒の育成
～やりとりを活性化させるための工夫～」

(5) 日 程

公開授業 13:10～14:00

- ◆授業学校 三国中学校2年5組
- ◆授業者 園井 圭介 (三国中学校 教諭)
Burkett Leah (三国中学校 ALT)

全体会 14:20～15:05

- ◆講評 加藤 修 先生
(県教育庁義務教育課)

講 演 15:15～16:25

- ◆演 題 『思考力・判断力・表現力を高める英語授業』
- ◆講 師 紺渡 弘幸 (こんど ひろゆき) 氏
(仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科 教授)



6. 全英連東海北陸地区英語教育協議会

令和元年12月3日(火)、名古屋市にて令和元年度全英連東海北陸地区英語教育協議会が開催されました。福井・石川・富山・愛知・岐阜・静岡・三重の7県から各代表が参加し、全英連静岡大会や、令和2年度以降の日程などについて協議しました。田中宏明会長が参加しました。

7. 第38回岩崎賞選考委員会

本年度は応募がありませんでした。

8. 第2回役員会

令和2年2月19日(水)、ユーアイふくいにて第2回役員会を開催し、令和元年度事業・決算中間報告、令和2年度事業計画等について審議しました。



事務局長 久保 絵理 (福井市光陽中学校)

県中教研英語部会では、「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実」を研究主題に掲げ、各ブロックや各郡市、各学校で研究実践に取り組んできました。本年度の活動の概要は以下の通りです。

1 6月8日(土) 英語教育学習会 (福井市光陽中学校) 参加者 15名

- ・学習会テーマ 攻略リスニング
- ・講師 柴原 智幸 氏 (神田外語大 講師)

2 6月11日(火) 第1回県中教研英語部会郡市部長研究会 (福井市光陽中学校)

- ・平成30年度事業報告ならびに令和元年度事業計画について
- ・令和元年度福井県中学校教育研究集会について
- ・令和元年度東海北陸公立中学校英語教育研究会愛知(三河)大会について
- ・令和3年度東海北陸公立中学校英語教育研究大会福井大会について
- ・中学校英語セミナー、英検について、各ブロック間の情報交換

**3 8月8日(木)、9日(金) 令和元年度第43回東海北陸公立中学校英語教育研究会
愛知(三河)大会 (ライフポートとよはし) 参加者 8名**

- ・大会テーマ 「心豊かなコミュニケーションをめざして ～小中の学びをつなぐ!～」
- ・講演会 演題「新中学校学習指導要領で求められる、英語授業改善のあり方」
講師 国立教育政策研究所 教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程情報教育・外国語教育課教科調査官
初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 氏

4 8月9日(金) 令和元年度福井県中学校教育研究集会 (鯖江市鯖江中学校) 参加者 43名

- ・発表者 漆崎 智子 教諭 (福井市進明中学校)
萬道 尊教 教諭 (坂井市立三国中学校)
太田 萌 教諭 (越前市万葉中学校)

5 10月17日(木) 第2回県中教研英語部会郡市部長研究会 (福井市光陽中学校)

- ・10月29日開催 県英語教育研究大会について (三国中学校)
- ・11月8日開催 全英連三重大会について
- ・令和3年度東海北陸公立中学校英語教育研究大会福井大会について
- ・令和元年度活動実施状況・令和2年度事業予定について
- ・全国学力・学習状況調査結果分析より
- ・令和2年度各研究集会、研究協力者、来年度各郡市の取り組みについて



令和元年度県中教研英語部会郡市部長名及び活動報告



部	部長名	活 動 報 告
福井市部	大久保昌倫 (光陽中)	<p>福井地区中学校教育研究会英語部会は、県の中教研集会の発表に向けての授業研究ならびにブロック内の前期・後期の授業研究を中心に活動してきました。また、独自の組織である授業づくり委員会を中心に、授業参観、効果的な授業づくりについての情報交換や授業実践における意見交換などを行いました。</p> <p>【令和元年度活動報告】</p> <p>4/16 第1回中教研福井ブロック英語部会主任会〔明倫中〕</p> <p>6/18 福井ブロック中学校教育研究集会〔光陽中〕 (進明中 漆崎 智子 教諭) (司会：殿下中 記録：至民中)</p> <p>7/12 前期福井ブロック内授業研究会(濱下 恵理子 教諭)〔越廼中〕</p> <p>8/7～8 福井市英語サマーキャンプ(事務局：社中) 〔福井市少年自然の家〕</p> <p>8/ 9 福井県中学校教育研究集会(発表：進明中)</p> <p>8月～3月 授業づくり委員会(5回程度)</p> <p>10/29 福井県英語教育研究大会(坂井大会)〔三国中〕</p> <p>1/29 後期福井ブロック内授業研究会(坪川 紘子教諭)〔灯明寺中〕</p> <p>2/28 第2回中教研福井ブロック英語部会主任会</p>
吉田郡部	稲葉 雄治 (松岡中)	<p>吉田郡教育研究会の事業として、郡内中学校のそれぞれの校区ごとに、中学校の英語教育と小学校の英語活動の現状や課題について情報交換を行い共通して取り組むことを確認し、小中の連携を深めた。また小中それぞれの英語の授業を参観し、授業研究会などで活発な意見交換ができた。</p> <p>【令和元年度活動報告】</p> <p>4/17 第1回中学校英語部会主任会</p> <p>6/5 授業研究会 小学4年英語活動 御陵小学校 (授業者 堀 美里 教諭)</p> <p>6/21 授業研究会 中学3年英語 永平寺中学校(習熟度別学習) (授業者 前田 悦子 教諭)</p> <p>6/24 授業研究会 小学5年英語 吉野小学校 (授業者 井上のぞみ 教諭)</p>

部	部長名	活 動 報 告
吉田郡部	稲葉 雄治 (松岡中)	<p>6/27 授業研究会 中学3年英語（習熟度別学習）松岡中学校 （授業者 山内清美・杉若航平 教諭 Alana Hankerson）</p> <p>10/24 授業研究会 中学1年英語・3年英語 松岡中学校 （授業者 稲葉雄治・藤本依里 教諭）</p> <p>10/29 授業研究会 小学3年英語活動 御陵小学校 （授業者 綿貫 佑華 教諭）</p> <p>11/8 授業研究会 中学2年英語 上志比中学校（授業者 南部 和子 教諭）</p> <p>1/17 第2回中学校英語部会主任会</p>
坂井ブロック (坂井市・あわら市)	脇谷 恵子 (三国中)	<p>今年度も昨年度に引き続き、『自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成～やり取りを活性化させるための工夫～』という研究主題のもと、「福井県英語教育研究大会」(坂井大会)の研究実践に取り組んだ。やり取りを活性化させるために①必然性のある場面設定、②インタラクション（TーT、TーS）、③フィードバックの3つを意識しながら授業を組み立てた。</p> <p>主な活動内容</p> <p>(1) 坂井地区英語セミナー（坂井市兵庫コミュニティセンター） 地区内中学2年生49名参加 チーフのALTが主導権を発揮して、全ての活動からスケジュール決定、ALTへの指示など、段取りよく進めることができた。また、生徒たちはALTとたくさん話すことができ、充実した一日になった。</p> <p>(2) 研究発表・・・中教研坂井ブロックおよび県中教研研究集会において、三国中学校の萬道尊教諭が発表</p> <p>(3) 福井県英語教育研究大会(坂井大会) 10/29 三国中学校 ①公開授業 授業者：園井圭介教諭・ALT 2年5組 Unit5 ②全体会 ③記念講演 講師：紺渡 弘幸教授 (仁愛大学 人間学部コミュニケーション学科) 演題：「思考力・判断力・表現力」を高める英語授業 大会当日は、180名を超える参加者の中、生徒と教員が英語でやり取りしながらユニバーサルデザインのよさを伝え合う様子を見て、これまでの研究の成果を感じることができた。また、記念講演では、思考力・判断力・表現力を高める授業のあり方について学ぶことができ、大変有意義な大会になった。</p> <p>今後も、これまでの授業実践で得たことを生かして、授業の質を高め、生徒の英語力を向上させるために研究を進めていきたい。</p>


部	部長名	活 動 報 告
大 野 市 部	広瀬 泰司 (尚徳中)	<p>○研究主題 英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実</p> <p>4/11 第1回大野市学校教育研究会（学びの里「めいりん」） 分科会結成、研究主題および研究計画、当面する課題についての意見交換</p> <p>5/ 9 第2回大野市学校教育研究会（尚徳中学校） 分科会長会、分科会予算配分等</p> <p>6/14 中学校教育課程奥越ブロック集会（勝山北部中学校） 研究授業および授業研究会を通した研究主題の追及</p> <p>6/18 夏季英語セミナー運営研究会（尚徳中学校） 夏季英語セミナーの企画運営全般についての協議</p> <p>7/30 奥越中学校夏季英語セミナー（大野市有終会館） 奥越地区の中学校全学年を対象にした英語活動の実施</p> <p>8/ 1 第3回大野市学校教育研究会（有終南小学校） 小学校英語部会と合同研究会</p> <p>8/ 9 県中学校教育課程福井県研究集会（鯖江市）</p> <p>11/6 大野市学校教育研究会英語部会研究会（尚徳中学校） 県学力診断テストの結果に基づいた市内中学生の到達度の分析</p> <p>2 学期 大野高校互見授業（大野高校）大野高校教員による英語授業の参観と指導方法の協議</p> <p>2 学期 奥越明成高校互見授業（奥越明成高校）奥越明成高校教員による英語授業の参観</p>
勝 山 市 部	石倉 玲子 (勝山南部中)	<p>4年間の文部科学省指定「英語教育強化地域拠点事業」、昨年度の「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」を経て、小中学校共に、英語のやり取りを中心としたスタイルで授業実践を行っている。授業参観や研究会への参加を通して、学校間の連携を図りながら、これまで積み上げてきた研究成果を継続し、生徒の力をさらに伸ばしていくための授業改善を目指している。</p> <p>（1）勝山市学校教育研究会英語部会年間活動</p> <p>4月19日 年間活動計画、今年度の役割分担と取り組みの確認</p> <p>6月14日 中学校教育課程奥越ブロック研究集会事前打ち合わせ</p> <p>6月18日 中学校教育課程奥越ブロック研究集会 於：勝山市立勝山北部中学校 ・研究授業および研究討議 (授業者：勝山北部中学校 鳥山美季教諭)</p>

部	部長名	活 動 報 告
勝 山 市 部	石倉 玲子 (勝山南部中)	<p>6月18日 奥越英語セミナー運営委員会 於：大野市尚徳中学校 7月30日 奥越ブロック夏季英語セミナー 於：大野市結とびあ 8月09日 県中学校教育課程研究集会 1名参加 於：鯖江中学校 1月中旬 市英語部会：今年度の振り返りと R4 年度県中教研に向けた 今後の取り組みについての意見交換</p> <p>(2) 今年度の取り組み 事業の見直しとして、昨年度まで実施していた市内 3 中学校共通のス ペリングコンテストを各学校独自で行うこととし、新たに、教科書を効 果的に活用するためにどんな発問をするとよいかを考え、それらを記録 して、協同で資料を作成する取り組みを始めた。</p> <p>(3) 研究実践 奥越中教研 勝山北部中学校 鳥山美季教諭・ALT 4 年間の英語教育強化地域拠点事業により小学校で 4 年間(140時間) の外国語の授業を経験している中学 1 年生の授業実践を通して、特に 「授業での効果的な教科書の活用の仕方」「小学校での学びをどのように 生かし、さらに子どもの力を伸ばすか」について意見交換を行った。</p> <p>(4) 今後の取り組み 生徒が自分の考えや気持ちを伝え合う活動を充実させるための授業改 善を推進していく。</p>
鯖 江 市 部	鳥居 和幸 (中央中)	<p>研究テーマ「自分の気持ちや考えを意欲的に伝え合う生徒の育成」のもと、 授業の質と教師の指導力向上に努め、中身の濃い研究実践に取り組んだ。ま た小学校からの英語教育の強化に伴い、今年度も市内三中学校の英語教員に よる出前授業を、それぞれの校区の全小学校で実施する等、小学校との連携 の更なる強化に努めた。</p> <p>(1) 研究実践 市授業研究会 鯖江中学校 藤間真斎教諭・ALT 11月19日(火) 1年 Unit 9 英語力向上事業協力校 中央中学校 公開授業 三國寿之教諭・ALT 12月12日(木) 1年 Daily Scene 4</p> <p>(2) 小中連携 小中における授業研究の案内を、市内全ての小中学校に送付し参観を 呼びかけ、意見交換を行ったり、中学校英語教員による小学校での出前 授業を実施したりするなど小中連携を強化し、小学校から中学校へのよ りスムーズな移行がなされるよう努めた。</p> <p>・小学校の英語・英語活動授業研究会への積極的な参加 立待小学校 丸山真由美教諭・ALT 11月15日(金) 4年 Unit 5</p>

部	部長名	活 動 報 告
鯖江市部	鳥居 和幸 (中央中)	<p>・ 6 年生対象に中学校英語教員による出前授業の実践（学期に 1 回） （3 学期は、5 年生対象に実施）</p> <p>（3）丹南ブロック英語セミナー（担当 鯖丹地区） 鯖江中学校で 8 月 2 0 日に実施 丹南地区の教員が協力し、より質の高いセミナーの実施をめざした。 当日は、とても和やかで活発なセミナーとなった。 今後も、授業の質と教師の指導力の向上、生徒の英語力の向上に努め、授業研究を地道に進めていきたいと考えている。</p>
丹生郡部	三武 正明 (越前中)	<p>おもな活動</p> <p>4月15日（月）丹生郡学校教育研究会 @朝日中学校 6月 7日（金）県英語研究会総会・講演会 @県生活学習館 6月11日（火）第1回郡市部長会 @光陽中学校 6月27日（木）鯖丹・南越ブロック研究集会 @万葉中学校（4名参加） 7月 9日（火）授業研究会 @越前中学校 授業者：渡邊慶子教諭（越前中） 参加者：15名（授業力アップ講座として参加した4名を含む）</p> <p>【おもな協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A L T に質問をさせたことは、学習課題に対する生徒の主体性を高めるのに有効だったか。 ・ パソコンやインターネットを利用した活動は、生徒の表現活動の活性化に有効であったか。 ・ 日頃の取り組み <div data-bbox="396 1222 780 1491" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="801 1222 1188 1491" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">授業風景①（越前中学校）</p> <p>8月 9日（金）県中学校教育研究集会 @ 鯖江中学校（2名参加） 8月20日（水）丹南中学生英語セミナー @鯖江中学校（10名参加、※生徒は10名参加） 10月 3日（木）県中学校英語弁論大会 @鯖江市嚮陽会館 10月17日（木）第2回郡市部長会 @光陽中学校</p>

部	部長名	活 動 報 告
丹 生 郡 部	三武 正明 (越前中)	<p>10月29日（火）県英語教育研究大会 @三国中学校（5名参加） 11月29日（金）第1回丹生郡英語科主任会 @朝日中学校</p> <div data-bbox="396 347 780 616">  </div> <div data-bbox="803 347 1188 616">  </div> <p>授業風景②（宮崎中学校）</p>
越 前 市 ・ 今 立 郡 部	水谷 善長 (武生一中)	<p>1 活動概要</p> <p>○授業研究会は年3回あり、今年度は、越前市では武生二中和武生一中、南条郡・今立郡では池田中で実施された。全英語教員が1回以上参加し、公開授業と研究会を通して授業力の向上を図った。</p> <p>○夏季休業中には、英語教員研修会を実施し、県教委義務教育課指導主事を講師に迎え、中学校指導教材「OPINION」の活用法について講義を受けた。2学期以降の授業改善や試験作成に向けて大いに参考になった。</p> <p>○本年度は、例年の会場である鯖江市文化センターが工事のため使用できなかったため、鯖江中学校を会場とし鯖丹ブロックが中心となり準備を進めたが、前日の打合せや当日の運営含め、全般的に鯖丹地区と南越地区の英語教員が協力して企画・運営を行った。当日はA L T 28名、生徒約60名の参加を得て開催され、最初は少々緊張気味であったが、歌やゲーム、クイズ、劇などで英語を使う姿が多く見られ、英語でのコミュニケーションの楽しさを実感していた。</p> <p>2 活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月11日 第1回英語科主任会（武生一中） ・ 5月22日 第1回英語科授業研究会（武生二中 山田教諭） ・ 6月 7日 県英語研究会総会・講演会（国際交流協会） ・ 6月27日 中教研鯖丹・南越B研究集会（万葉中） ・ 7月25日 南越地区中学校英語科夏季研修会（武生一中 30名参加） ・ 8月8～9日 東海北陸公立英語教育研究大会三重大会（2名参加） ・ 8月 9日 県中教研集会英語部会（朝日中） ・ 8月20日 丹南地区英語セミナー（鯖江中学校） ・ 10月3日 県中学校英語弁論大会（鯖江市嚮陽会館） ・ 10月24日 第2回英語科授業研究会（武生一中 鈴木教諭）

部	部長名	活 動 報 告
越 前 市 ・ 今 立 郡 部	水谷 善長 (武生一中)	<p>(同時開催：第2回英語科主任会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月31日 県英語教育研究大会坂井大会(三国中) ・11月19日 南越地教委連管内英語科授業研究会(池田中 大久保講師) ・令和2年2月6日 第3回英語科主任会(武生一中) <p>3 成果と課題</p> <p>「互いに気持ちや意見を伝え合い、考えを深めようとする生徒の育成～5領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動の工夫～」という研究主題の下、万葉中学校を中心に「リスニングを軸とした指導と評価の工夫～伝え合うためのステップとしての聴く力の育成方法～」を研究テーマに掲げ、県中教研研究集会で研究発表を行った。また、年3回の授業研究会では、万葉中の研究を土台にして、リスニングとスピーキング、そしてライティングを関連付けた活動の中で、マインドマップを活用した即興性の高い「やりとり」を目指し、実践研究を進めた。</p>
南 条 郡 部	樫尾 基司 (河野中)	<p>南条郡は、授業研究会や研修会、また丹南ブロック夏季英語セミナーなど越前市・今立郡部と一緒に活動している。南条郡独自では、令和元年度南越地教委連管内英語教育研修会が池田中学校で行われ、1年生のUnit 8(2)"whose"の学習を「共働的な学び」の中で取り組んでいた。越前市からもALLTを含む多くの先生方が参加され、授業後の研究討議も活発に進められた。</p> <p>なお、令和3年度の福井県中学校教育研究集会および東海北陸公立中学校英語教育研究会の発表が南条郡に当たっているので、それに向けて取り組み始めたところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月22日 第1回南越地区授業研究会(武生第二中学校) 6月27日 中教研鯖丹・南越ブロック研究集会(万葉中学校) 7月25日 南越ブロック英語科夏季研修会(武生第一中) 8月9日 県中教研集会(鯖江中学校) 8月20日 鯖丹・南越ブロック夏季英語セミナー(鯖江中学校) 10月24日 第2回南越地区授業研究会(武生第一中学校) 11月19日 南越地教委連英語科授業研究会及び南越地区授業研究会(池田中学校) 12月26日 第1回南条郡英語科研究会(南条地区公民館)

部	部長名	活 動 報 告
敦賀市部	浜上 千恵 (気比中)	<p>【令和元年度活動概要】</p> <p>○英語力向上プロジェクト</p> <p>A) 市内各中学校での取組発表および一斉授業研究会の実施 月1回の部会時に、各学校で現在取り組んでいる指導法等についての報告会を行い、情報共有を行っている。さらに、11月には一斉授業研究会を実施した。今年度は、松陵中学校 宮川伸弥教諭とALT Kaliさんによる中学3年生対象のRetelling授業に取り組んだ。</p>  <p>B) 基礎力向上に向けたTEA-TIMEの実施 全国学力学習状況調査の英語科結果分析をした際、語彙・文法など、英語学習の基礎となる分野で苦手意識を持っていることが分かった。その結果を受けて、基礎力強化のための、「Tsuruga English Adventure」『TEA-TIME』を作成し、市内一斉に実施した。1回に10問、合格すればレベルを上げていけるため、自分のペースで学習できる。現在も継続実施中で、今後も市内全体で取り組める英語力向上策を検討していきたい。</p> <p>C) 夏休み英語セミナーの実施 令和初の英語セミナーは、これまでと趣向を大きく変えて、『English Cafe〜くつろぎのSummer Time〜』をテーマに、カフェ形式のゆったり感の中で、ALTとのChatを楽しんだり、Missionに取り組んだり、Presentationできる場を多く取り入れ、発信と受信が双方向から可能になるようなセミナーを計画した。 終了後生徒の感想の中には、「だんだん楽しくなって最終的には予想の何倍も楽しく感じました。他校に友達ができてよかった。」などの感想が多く聞かれ、次年度につなげていきたいと感じた。</p> <p>D) 小中接続事業における小学生への英語授業の実施など 11月19日(火)、市内の小学校6年生を対象に、英語授業を行った。4月から各中学校に入学してくる児童たちを前に、英語学習の楽しさと大切さを伝える授業を工夫して行った。また、市教科研究員による公開授業も実施し、各校から授業を相互に見合う研修も充実させている。</p> <p>【活動実績】 4月15日 第1回英語部会『年間活動計画等協議及び役割分担』 (気比中)</p>

部	部長名	活 動 報 告
敦賀市部	浜上 千恵 (気比中)	<p>5月20日 第2回英語部会「授業改善と市プロジェクトについて」 (気比中)</p> <p>6月17日 第3回英語部会「英語セミナーについて」 (気比中)</p> <p>8月 1日 二州地区中学校英語セミナー (敦賀市南公民館)</p> <p>9月 9日 臨時英語部会「英語力向上検討会」開催 (市役所講堂)</p> <p>10月21日 第4回英語部会「市プロジェクト・研究会参加報告」 (気比中)</p> <p>11月18日 第5回英語部会「市一斉授業研究会」 (松陵中)</p> <p>12月16日 『ALT によるクリスマスキャロル』 (市内各中学校) ～18日</p> <p>1月20日 第6回英語部会「SASA 結果分析・学習会」</p> <p>2月17日 第7回英語部会「小中合同英語研修会」 長良東小学校 武部八重子先生をお迎えして・1年間 のまとめ (気比中)</p>
三方郡・三方上中郡部	百田 忠浩 (三方中)	<p>【令和元年度 活動報告】</p> <p>4月 中高連携授業打ち合わせ (美方高・美浜中・三方中)</p> <p>5月 三方中、美浜中に美方高より乗り入れ授業開始</p> <p>6月 三方中 授業づくり強化月間① (教科部会中心、齊藤、森下、黒川教諭、森本講師)</p> <p>美浜中 英語力向上事業 (公開授業)</p> <p>7月 美方高教員による三方中、美浜中への出張授業 美浜中 公開授業 (中坪教諭)</p> <p>8月 美浜中 小中合同、ALT 活用研修 中英セミナー敦賀会場に参加</p> <p>9月 放課後授業に美方高より乗り入れ授業開始 美浜中 公開授業 (木戸教諭) 美浜中 英語力向上事業 (参観)</p> <p>10月 英語弁論大会に出場 三方中 授業づくり強化月間② (異教科部会中心、齊藤、森下、黒川教諭、森本講師)</p> <p>11月 美浜中 公開授業 (安井教諭)</p>

部	部長名	活 動 報 告
三方郡・三方上中郡部	百田 忠浩 (三方中)	<p>三方中学校</p> <p>1 教科研究テーマ 「小学校からの主体的な学びを引き継ぎ、他を意識した自己表現力を高める指導の工夫」</p> <p>2 具体的取組 ①主体性を育むために ・自己表現活動の充実（話す・書く） ・小中のつながりを意識した授業の流れや活動の工夫 ②たくましさ（粘り強さ）を育むために ・即興的なやりとりのある言語活動の充実</p> <p>美浜中学校</p> <p>1 研究テーマ 「密接な小中連携を行い、基本的な知識と技能を身につけさせる工夫を行う。ALT とペア学習を活用し、コミュニケーション活動に意欲的に取り組む生徒を育成する。」</p> <p>2 具体的取組 ①密接な小中連携を行う ・小学校の授業参観、教材の研究 ・既習事項を授業の導入や文法説明に生かす ・書く力、読む力を強化する家庭学習課題を与える ②コミュニケーション活動を工夫する ・ALT の先生との SMALL TALK、ペアでの SMALL TALK を行う ・相手や場面を意識した書く活動を行う ・ALT の先生との FREE CHAT や ENGLISH CLUB</p>
小浜市・三方上中郡部（上中地区）	中島 正二 (小浜中)	<p>【令和元年度 活動報告】</p> <p>4月22日 小浜市教育研究会（英語部会）①</p> <p>5月18日 小浜市英語授業作り研修会</p> <p>6月 3日 小浜市教育研究会（英語部会）②</p> <p>8月 1日 小浜市英語授業作り研修会</p> <p>8月 5日 若狭ブロック英語セミナー事前打ち合わせ・準備</p> <p>8月 6日 若狭ブロック英語セミナー（小浜市食文化館）</p> <p>10月 7日 小浜市教育研究会（英語部会）③</p> <p>11月 1日 授業研究会（小浜第二中学校）</p> <p>11月 3日 県中学校英語弁論大会出場</p> <p>12月 2日 授業研究会（小浜中学校）</p> <p>12月 6日 授業研究会（上中中学校）</p> <p>1月 7日 小浜市英語授業作り研修会</p> <p>1月31日 授業研究会（小浜第二中学校）</p>

部	部長名	活 動 報 告
小 浜 市 ・ 三 方 上 中 郡 部 (上中地区)	中島 正二 (小浜中)	<p>2月 3日 小浜市教育研究会（英語部会）④</p> <p>1年を通して、中中・小中・中高連携授業研究会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業研究会に、中学校の教員が参加した。 中学校英語教員が各中学校区の小学校を訪問し、小中連携授を実施した。 (中学校の定期テスト期間に設定) ・各中学校の公開授業の案内を市内の小学校や近隣の高校にも出し、小中高の教員が参観する研究会を実施した。 ・高校の公開授業研究会に中学校の教員が参加した。 (11/14若狭高校・11/18若狭東高校で実施) <p>令和3年度の県英語教育研究大会（若狭大会）に向けて、大飯郡と合同で「若狭ブロック英語教育研究会」を開催し、今後の見通しと研修の必要性について、確認をした。部員の研修のため、今まで以上に県内外の研究会や研修会へ積極的に参加した。</p>
大 飯 郡 部	仲野比佐代 (高浜中)	<p>【活動内容】</p> <p>①授業力向上について</p> <p>「中学校教科教育研究会」の研修において、指導案検討と、以下の通り授業公開・事後研修を実施した。</p> <p>日時 2019年11月1日（金）</p> <p>会場 大飯中学校</p> <p>単元名 Unit 5 Universal Design</p> <p>本時の目標 ・足を怪我して松葉杖を使う仲間が学校生活を過ごしやすくなるための、多様なアイデアや英語表現に気づき自分の考えを書くことができる。</p> <p>(外国語表現の能力)</p> <p>②英語セミナーについて</p> <p>小浜市・三方上中郡と合同開催で、以下の通り実施した。</p> <p>日時 2019年8月6日（火）</p> <p>会場 若狭おばま食文化館</p> <p>参加人数 生徒：52名、ALT：12名、JTE：8名</p> <p>主な内容 (1) Activity (Self-introduction and Games) (2) Cooking (3) International Time (ALTs introduce their culture)</p> <p>③第1回 県英語教育研究大会準備委員会</p> <p>日時 2019年8月6日（火）16:00～</p> <p>会場 若狭おばま食文化館</p>

部	部長名	活 動 報 告
大 飯 郡 部	仲野比佐代 (高浜中)	<p>【成果と課題】</p> <p>① 授業力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的で深い学びを創り出す授業づくり」をテーマに授業研究を行った。提案された授業の中で、英語でのやりとりを自由に楽しむ生徒の姿を見ることができ、これまで研究を進めてきた成果が存分に発揮されていた。 <p>②英語セミナーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT と一緒に調理をするという活動を設定することにより、必然性のあるコミュニケーション活動を行うことができた。 ・ALT によるプレゼンテーション (International Time) は体験活動が多く、生徒たちの満足度が高かった。 ●参加者が増え、活動場所が手狭だった。来年度のセミナーに向けて会場の検討を行う必要がある。 <p>③準備委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の見通しと研修の必要性を確認することができた。 ・各種研究会への自主的な参加者が増えた。



県高教研英語部会・県高文連英語部会

代表理事 鈴木 秀 人

1. 令和元年度高教研・高文連英語部会役員

部 会 長 田中 宏明 (武生高等学校長)
副部会長 竹本 俊穂 (羽水高等学校教頭)
代表理事 鈴木 秀人 (羽水高等学校教諭)
庶 務 清水 慈昭 (羽水高等学校教諭)
会 計 山本 美好 (羽水高等学校教諭)
事 務 局 羽水高等学校

〒918-8114 福井市羽水1丁目302

TEL: (0776) 36-1678 FAX: (0776) 36-1676

2. 予算執行

〔高教研〕 本部より英語部会に 324,000 円頂き、高教研英語部会理事会・高教研英語部会
総会・県英語研究大会の運営費や、『会報』の印刷費などに充てました。

〔高文連〕 本部より英語部会に 186,000 円頂き、高校英作文コンテスト (93,000円)・高校
英語弁論大会 (93,000円) の運営費に充てました。

3. 高教研英語部会理事会

令和元年5月27日(月)、羽水高校生徒会館にて開催しました。議長は藤島高校 酒井治先生が務められ、平成30年度事業報告・決算報告、平年度事業計画および予算案を審議しました。また、高校再編に伴い、今後の高教研大会発表校のローテーションのあり方について審議しました。その結果、普通高校・職業高校それぞれでまわす従来のやり方ではなく、統一した順番表を作ることによって合意がなされました。また、英語教育研究大会の高校の担当校について、昨年度までに決定したローテーションの確認が行われました。

4. 高教研英語部会総会

令和元年6月7日(金)、ユーアイふくいにて開催しました。議長は高志高校 進士祐介先生が務められ、平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画および予算案、今後の高教研大会発表校を確認しました。

5. 福井県高等学校教育研究大会 英語部会

期 日 令和元年8月23日(金)
会 場 手寄地区市街地再開発ビル(AOSSA)・福井県民ホール
大会主題 主体的・対話的で深い学びの実現のための教科・科目指導はどのようにすればよいか。

部会主題 実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探究し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことができる生徒を育てるための英語科の指導はどのようにすればよいか。

部会役員 司会者： 水木 毅（武生東高校教諭 福井県英語研究会 研究部長）
助言者： 岩本 公信（高校教育課指導主事）
澤田 則義（教育総合研究所主任）
発表者： 高橋 郁子 今井 信義（鯖江高校教諭）
米田 美沙子 南東 寛司（科学技術高校教諭）
記録者： 森谷 町子（大野高校教諭）
本好 祐爾（武生工業高校教諭）

発表の概要

【発表１】 福井県立鯖江高等学校 高橋 郁子 教諭
今井 信義 教諭

テーマ：「発信力を高めるためのスピーキング・ライティングの指導」

1. はじめに

1) 学校の紹介

全日制普通科と定時制普通科があり、鯖江市街地にある緑豊かな王山に建つ校舎から鯖江市街地を一望できる。交通の便と自然環境に恵まれた立地である。

全日制は1年生4クラス、2年生と3年生が5クラスの、計14クラスで、各学年に2クラスの特進クラスを設定している。学習と部活動の両方に熱心に取り組み、いわゆる文武両道を目指している学校である。学習面では朝課外（特進クラス）、週課題の設定など、手厚く指導する一方、部活動では陸上、体操、男子バレーボール、硬式野球、なぎなた、吹奏楽で特色選抜入試を実施し、更なる活性化を図っている（平成31年度入試）。

2) 地域との連携

6月13日（木）に、鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所の相互連携協定を締結した。鯖江高校の教育改革を、行政、経済界が全面的にサポート。地域に根ざした学校作りを推進し、将来、地域で活躍する市民を育成するという目標の第一歩となった。今後、生徒向けパネルディスカッションや授業公開、全教科での地域連携などを通して学校全体で地域との協働に取り組む。

3) 学校再編

学校再編を機に探究科が設置され、普通科にもスタンダードクラス、スポーツ福祉コース、IT・デザインコースが開設される。

2. 実践内容

1) 各学年での取組

1年では4技能を統合的に使って、①自分自身のことや自分の身の回りのこと、②教科書の内容に関することに対する、自分の意見の要点を学習した基礎的な表現を用いて伝えることができることを目標としている。英語表現Ⅰでは『Fuku-English』を用いて、テーマに関連して自分自身のことについて表現する活動を行っている。コミュニケーション英語Ⅰの授業では、教科書の内容に関連するテーマについて、PRE-READINGやPOST-READINGのペア活動で自分自身の意見や考えを表現する活動を行っている。また、他教科の学習内容を生かして、例えば情報の授業で学んだWORDの技術を用いて、作品制作に取り組んだ。PRE-READING活動で即興でのやりとりや、POST-READING活動で、授業で学んだことを整理して、自分の意見や考えを表現する中で、少しずつ自分の言葉で表現し、相手に伝えようとする姿が見られるようになっている。今後もペア活動などの生徒同士のやりとりの機会を十分に確保し、生徒同士のやりとりの中から生徒の「気づき」を促し、主体的・協働的に学ぼうとする態度を育てていきたい。

2年では、4技能を統合的に使って、①自分自身のことや自分の身の回りのことや、自分が興味をもっていることについて、②学習した表現を用いて、賛成・反対など自分の立場や理由を明確にして表現することができることを目標としている。英語表現Ⅱでは、4単位中1単位分を使って、学生向け英字新聞を読み、関連する事柄について、自分の意見をペアでやりとりをした後、関連する事柄について与えられたテーマで50語以上の英作文を行っている。自分の身の回りのことについて、自分の感情だけではなく、具体的な事例を基に、理由や根拠を示して相手に伝えようとする態度が身につき始めているように思う。正確さや文章の構成という点ではまだまだ未熟な部分はあるが、少しずつ自分の意見を英語で表現する力は高まっていると感じている。

3年では自分の地域に関することや社会的な話題について、学習した表現を活用しつつ、例示や協調などをしながら発表したり、他者と議論したりすることができることを目標としている。2年時には与えられたテーマについてグループで調べ学習をし発表を行うが、3年時には自分の興味関心のあるテーマを自由に設定する。テーマに関する内容についての問題・現状、自分の意見から成る2段落構成、120語以上200語程度までの英作文を書くが、その際、自分の意見を50語以上書くように指導している。

2) 鯖江高校での取組

探究活動を通して鯖江市の自然、文化遺産、食材、歴史、産業などについて調べてまとめた『鯖江市デジタルパンフレット』を作成し、鯖江市役所や鯖江高校のHPに掲載している。その中で英語科としては、他教科などから依頼のあったコンテンツを英訳したり、英語音声を吹き込んだりしている。今後、地域との協働による高等学校教育改革推進事業との関連づけや、全校体制化とカリキュラムマネジメントが課題となっている。

3. 今後の課題

現在行っている活動を、継続的なものに、また全体的なものにしていくこと、そしてデジタルパンフレットを活用しての探究的な活動を充実させていくことが今後の課題である。

【発表 2】 福井県立科学技術高等学校 米田 美沙子 教諭

南東 寛司 教諭

テーマ：「生徒の習熟度に応じた指導と表現活動の充実を図るための指導について」

1. 学校の概要

機械システム科、化学システム科、テキスタイルデザイン科、電子電気科、情報工学科の 5 学科からなり、「より良い社会を作る人となろう」を教育信条に、社会で自分らしく生きるための、知識・技術・人間性の育成を目指している。卒業後は県内に就職する生徒が多く、就職やその後の就労に備えて、在学中は専門教科の学習や実習が多くある。さらに、それぞれの専門性を生かした資格を取得することを目標に日々の学習に取り組んでいる。

英語に対しては、英語学習の初期の段階で躓いており、将来的に使用の必要性を感じていない生徒も多い。一方で、大学進学を目指す生徒も在籍しており、幅広い学力に対応した指導が必要である。

このような現状を踏まえて、それぞれの習熟度に応じた知識の習得をはかりながら、表現活動の充実につなげていくべきか、ということを経験に授業実践を行っている。

2. 実践内容

1) 基礎的な知識の習得のために

- ① 3 年間を通して単語テストを実施（全学年） 2 週間に 1 回程度実施している。
- ② 不規則動詞活用表テストを実施（全学年） 基本的な動詞の習得を目指している。
- ③ 少人数制での授業（1 年） 苦手意識がある生徒の理解を深めることを目指している。生徒間、生徒対教師の対話が活発に行われている。
- ④ 読字障害の生徒に対する個別指導（1 年） 週に 1 回程度、試験前を中心に実施している。

2) 進学に対応した知識の習得のために

- ① 工業高校生進学対策講座（2・3 年） 県内工業高校と共同で実施している。進学希望の生徒に対する情報提供や意識付けを行う。
- ② 県模試前、長期休業中の補習（3 年） 希望生徒を対象に、2 年次に扱えなかった文法事項を扱っている。
- ③ 進学希望者対象の選択科目（コミュニケーション英語Ⅱ）（3 年） 少人数制で発展的な内容を扱う。英作文校テストにも参加している。

3) 英語に触れる機会と表現活動の充実のために

- ① 表現活動を中心に行うグループワークの実施（1 年） 週に 1 回程度、1 グループ 4 人出席順にグループ分けをし、基本的には年間を通して同じグループで活動する。スピーチテーマを決めて、個人またはグループで原稿を作り、クラス内で発表する。テーマは身近で書きやすいものを取り上げる。発表・原稿ともに ALT による評価をし、生徒にフィードバックしている。グループごとにノートを作成し、評価や勉強の成果を確認できるようにしている。
- ② インタビューテストの実施（1 年） ALT との 1 対 1 の対話によるテストを実施して ALT が評価する。

- ③ALT による海外の歌を紹介するラジオ 週 1 回（木曜日）昼休みに 10 分程度放送する。
海外の歌を通して、英語に対して興味をもたせることを狙っている。
- ④英作文コンテストへの参加 選択英語履修生徒が参加している。昨年度は A 部門優秀賞 1 名、入選 1 名が入賞した。

3. 今後の課題

英語に苦手意識のある生徒に対して、基礎的な知識を身につけることが、英語での自己表現の充実につながると考えられる。ただ、少ない単位数の中、知識の定着と表現活動の充実をバランスよく行うにはどのような指導が適切か、また表現活動の評価についてどのように行っていくとよいか、という点が課題である。



【鯖江高校の発表についての質疑応答】

- Q：**プレゼンテーションのテーマを生徒自身が選ぶことで、自己肯定感や積極性につながっているということで、たいへん参考になった。コミュ英Ⅰで行われている、各レッスンのプレリーディングとポストリーディングの間に生徒にどのような変化や成長が見られたか。
- A：**プレリーディング活動で表現したものには主観的な意見が多いが、ポストリーディング活動では教科書を読み、お互いの対話を通して、理論付け・根拠付けをして表現できるようになっている。
- Q：**新しくできる探究科に対して英語科としての関わりについて検討していることがあれば教えて頂きたい。探究的な活動を英語科や他の教科で行っていくのか。
- A：**探究科にどのような生徒が入ってくるか現時点では分からない。現段階では 2 年時に学校設定科目「英語総合」を作り色々な活動ができるように準備し、どのような生徒がきても対応できるようにしていく。教科横断的な活動の中で英語科のできることを検討していかなければならないと考えている。
- Q：**英字新聞を読む活動について、どれくらいの頻度で行っているのか。題材はどのような観点で選択しているか。
- A：**週に 1 度とか決めているわけではなく、学期に記事を 3 本程度の割合で読んでいる。記事の内容はできるだけ生徒の興味関心を惹きつけたいという思いで、教科書内容に関連したものというよりタイムリーな記事を選ぶようにしている。
- Q：**エッセイを書く際に、事実と自分の意見とを分けて、自分の意見を○語以上書くというような指導をされているところが参考になった。事実と意見とをどう評価しているのか。事実、意見それぞれを評価しているのか、全体として評価しているのか。
- A：**情報室で調べると、調べた内容を英語で書き、あと自分の意見を 2、3 文で終わってしまうのではないかと考え、自分の意見は最低限これだけ書くようにと設定した。評価は厳密に事実と

意見とを分けてしてしているわけではないが、どの生徒も意見を丁寧に書いており、全体を評価している。

- Q：**デジタルパンフレットに録音されている英語の発音が素晴らしい。吹き込んだ生徒や準備について教えて欲しい。
- A：**特進クラスにいる生徒で、英語に興味関心高い生徒に教員から声をかけた。他の生徒にとってその発音の良さが参考になる生徒である。夏休み中、週に1回発音をチェックして、録音前に2ヶ月くらい練習した。
- Q：**3年エッセイライティングで自由に興味あるテーマを選ばせているのが素晴らしい実践だと思った。インターネットが使える環境で英作文をさせると、自動翻訳を使ったり、ウィキペディアそのまま引用したりする生徒が出てきてしまうが、そのような生徒に対してはどのような指導をされているか。
- A：**オンライン辞書の禁止はしていないが、語句調べのみに限定している。翻訳機能を使うと機械的で不自然な翻訳になることが多いので、そのことを示した上で、自分の表現で書くように指導している。英辞郎を推奨している。
- Q：**デジタルパンフレットの取組は、外部とのつながりができて素晴らしい。他校で同様の活動をしている学校はあるか？
- A：**(ありませんでした)

【科学技術高校の発表についての質疑応答】

- Q：**'Find things in common with your friend!' の活動で、自己紹介の活動を具体的にどのように進めているか？家族のことやデリケートな内容も出てくるが、どのように対応するか
- A：**トピックを紹介してグループ4人で（日本語で）話し合ってから英語で発表させた。特に指示をしなくても生徒同士で楽しい共通点を見つけることができていた。
- Q：**3つの柱のうちの一つ、「基礎的な知識の習得のために」の③に挙げられている、「少人数制での授業」での生徒の様子を聞かせていただきたい。
- A：**少人数制での授業では生徒との距離が近く、音読でうまく読めていない時には読めるまで指導することができる。生徒も質問をしやすい雰囲気である。
- Q：**苦手な生徒に対しても丁寧に指導されている。読字障害の生徒への個別指導について、どのようなことから始めたか。
- A：**英語に対する読字障害を持つ生徒なので、単語の意味を覚えることから始めた。スモールステップで、覚えられたという達成感につながるよう指導していた。
- Q：**グループ活動の発表の際に、前を向いてしっかり発表できていた。発表態度についてどのような指導をされているのか。また生徒同士の評価はどのようにさせているのか。
- A：**最初は紙を見て読むだけの生徒がほとんどであった。そこで、発表後にはALTに発表についてのコメントをしてもらったところ、声の大きさなどに気をつけるようになってきた。生徒同士の評価は2学期以降取り組んでいきたい。
- Q：**グループワークでの発表について、発表した生徒の評価をグループの評価とするということだが、グループ内の得意な生徒に任せてしまうことも出てくる。そのような点で工夫していることを教えて欲しい。
- A：**どうしても英語が得意な生徒に頼ってしまうことはある。そこでテーマをあまり難しくせず、

苦手な生徒でも取り組みやすくしている。発表者は発表直前に教員から指定することにし、どの生徒も発表できるように準備させている。

Q：評価について、活動についてのみの評価なのか、直接学期の成績に反映される評価なのか。学期の成績ならどれくらいの割合で入れているのか。ALT の評価を直接学期の成績に反映させるのは難しいと感じている。

A：活動の評価は学期の成績には入っていない。これからの検討課題である。

【助言者からの講評】

・鯖江高校の発表について

『平成29年度「英語教育改善のための英語力調査」では、中高ともに4技能のバランスに課題があり、特に「話すこと」「書くこと」の力に課題がある。特に、高等学校の授業においては、依然として①外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取り組み、特に「話すこと」および「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないこと、②「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと、③読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を統合した言語活動が適切に行われていないことに課題がある。』と指摘された。また、平成30年告示次期学習指導要領でも、小中との接続および「書くこと」と併せて「話すこと」による発信力の強化が図られている。

そのような現状もふまえ、鯖江高校では、発信型の「話す」「書く」という技能に焦点をあて、聞いたり読んだりしたことに基づき、話したり書いたりするといった統合的な言語活動を行っている。また生徒にとって日々の生活に関わる日常的な話題から、広く国内外で起こっている事象など社会で起こっている出来事や問題など社会的な話題まで、取り扱う話題も段階的に高度なものとなっている。これは、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえたものであると言え、実際のコミュニケーションを意識した統合的な言語活動を取り入れた授業改善を行っている。

今後の授業改善に注意いただきたいことは、①言語活動を行う際には、必ず実際のコミュニケーションの場面、状況を意識したものであること。②単なるドリル的なものでなく、言語活動の充実（即興性、やり取り）を図ること。③5つの領域と結び付けた統合的な言語活動を行うこと。の3点である。

・科学技術高校の発表について

英語の苦手な生徒がいる一方で、大学進学希望の生徒にも対応できるよう試行錯誤されている。先日、教育総合研究所で行われた金谷憲先生の講演においても、中学の週4時間の授業で本当に定着しているかは疑問をもって指導をするべきだと言われていた。科学技術高校では進学希望の生徒への指導、また基礎基本を押さえるように心がけている普通の授業、生徒といっしょにがんばろうという先生方のスタンスは生徒にとっては心強いと思われる。読字障害の生徒にも懸命に対応している。新学習指導要領には『適切な指導を与えれば生徒がコミュニケーション活動ができる』という文言があるが、スローナーや障害のある生徒にもそれぞれに応じた指導を考えていく必要がある。学習の場にも『ユニバーサルデザイン・ラーニング』を取り入れ、得意な生徒も苦手な生徒も、どんな生徒にも授業に支障ない、わかりやすい、躓かないようにしていくよう心がけていく必要がある。単語を覚える際にもスクリーンに映してやると理解できる生徒、ひたす

ら発音して覚える生徒、繰り返し書いて覚える生徒、様々な生徒の実態や時期を考慮して工夫していくことが考えられる。健常者の授業にもそのような考え方を取り入れていく必要があると感じた。

モチベーションの向上・維持というのが課題になっていたが、褒め方の研究をしていく必要がある。小学生のように褒められて喜ぶ生徒、自分の成長が目に見えて分かると喜ぶ生徒、ALTや外国の人に英語が通じると喜ぶ生徒など様々であるので、そのような様々な場面を与えていけるよう考えていかねばならない。

● 高等学校

行 事 名 ・ 会 場	委 員
<p>第 5 8 回高校英作文コンテスト</p> <p>期日：9月28日(土) 会場：各高校参加：合計408名 (校内予選を含めると650名) 共催：高文連 後援：県教委・福井新聞社</p>	<p>委員長：吉川 長利 (高志高)</p> <p>中井 慶子 (大野高) 伊藤美智子 (敦賀高) 松宮 拓也 (若狭高) 蔦 将愛 (若狭高) 稲葉百合子 (仁愛女子高) 田中 操 (敦賀気比高)</p>
<p>・ コンテスト会場を各高校に設けていただきました。ご協力有り難うございました。</p> <p>・ 各校の参加者数を制限させて頂いておりますが、それより参加希望者が多い場合は校内選考をされている学校もあります。その際には採点をお願いしておりますが、ご協力に大変感謝しております。</p>	
<p>第 5 9 回高校英語弁論大会</p> <p>期日：10月5日(土) 会場：福井県国際交流会館 参加：1部25名・2部9名・3部5名 共催：高文連・ライオンズクラブ 後援：県教委・福井新聞社・福井テレビ</p>	<p>委員長：青山 秀樹 (福井商業高)</p> <p>笠松佳代子 (丸岡高) 吉田 充宏 (高志高) 西尾 康弘 (道守高) 山口 隆子 (丹生高) 永田乃理子 (丹生高)</p>
<p>・ 第1部の1位と第2部の1位が、第11回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会(愛知大会)に出場しました。</p> <p>・ ライオンズクラブによる海外派遣生選考会も兼ねています。各部入賞者の中の派遣希望生徒に面接選考会を後日おこない、3名を決定しました。</p>	

●中学校

行 事 名 ・ 会 場	委 員
第 6 2 回中学校英語弁論大会 期日：1 0 月 3 日（木） 会場：鯖江市文化センター 参加：5 6 名（4 6 校） 後援：県教委・読売新聞社	委員長：園井 圭介（三国中） 新谷 俊裕（春江中） 秋田 達也（明倫中） 和田 祐樹（鯖江中）
<ul style="list-style-type: none"> ・上位 3 名が高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に出場しました。 ・今年も多数参加いただきました。熱心な指導を有り難うございました。 ・審査結果が出るまでの時間を利用し、ゲームなどを通して参加者が交流しました。 	

中学校英語セミナー

各ブロックが主催する中学校英語セミナーに対し、企画部から活動の補助を行っています。各地域の特性を生かしたセミナーを実施しています。

主催：福井県中学校教育研究会英語部会

共催：関係市町教育委員会、関係市町中学校教育研究会英語部会、福井県英語研究会

後援：福井県教育委員会

◆高校英作文コンテスト委員会

第58回福井県高等学校英作文コンテスト

委員長 吉川長利（高志高校）

去る9月28日、本年も無事にコンテストを終了することができました。今年も昨年同様に、台風による日本への影響が多い年で、天気予報を気にしながらコンテストの準備作業にあたるという日々を過ごしました。しかしながらそのような困難な状況の中、おかげさまで今年も大勢の生徒に参加していただくことができました。各学校の先生方をはじめ、関係者の皆様方にまずは心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

さて、今年も語彙力の差によらない生徒一人一人の個性、創造性、独創性で訴えられる作文を書いてもらえるような出題内容に努めました。高校生らしいユニークな切り口の作品や、物事を真剣に考えて意見をしっかりと展開している優れた作品が数多く集まりました。

出題形式別にA部門から振り返ってみますと、「I want to thank you to--」の課題が、他の2つのテーマと比べて書きやすく感じられたためか、このテーマを選んだ生徒の割合が高くなっていました。この部門は、英語に苦手意識をもつ生徒が多く見られる中で、しっかりと準備して取り組んだ様子がわかりました。表現するためには、まず自分を見つめる作業をしなければならず、それが自分の成長につながるのだと感じました。

B部門は、今年も読んでいて楽しく、奇抜な発想と豊かな創造力が発揮された優れた作品が数多く寄せられました。与えられた2つの絵のうちAの絵を選択した生徒は、不思議な薬のおかげで、超能力を身につけた主人公が変幻自在に活躍する様子等、わくわくするようなストーリーが目を見ました。また、目を掃除している場面を具体的なストーリーと結びつけにくかったためか、ストーリーの展開にやや飛躍のあるものも見られました。Bの絵を選択した生徒は、黒猫と周囲の人々との心暖まる内容の作品を多く書いていました。黒猫の発する言葉にウイットが効いており、思わず微笑んでしまう作品等が印象的でした。毎年のことながら、B部門に参加する生徒の発想の豊かさと創造力には感服させられます。

C部門においては、3つの課題のうち、「高校生がアルバイトをすることにはどのようなよい点があると思いますか」という問いの課題を多くの生徒が選んでいました。日頃から触れたことのある課題だったためか、どの作品も根拠を示しながら自分の意見をしっかりと書いていました。「AIは日本を救う」という考えについて意見を述べさせる課題では、社会の情報化の一層の進展に対する考えを述べさせる課題であり、AIが人間には解決不可能と思われるような問題を解決する明るい未来を予想した意見がある一方で、AIが人間を支配するようになるといった否定的な未来を予想したものもあり、なかなか興味深く思いました。

コンテストの開催におきましては、各校の英語科の先生方には準備の段階から実施、発送にいたるまで多大なるご協力をいただいております。開催の過程で些細なことでもお気づきのことがございましたら、事務局までご連絡ください。今後ともコンテストの発展のためにより一層のご指導をお願いして今年度の報告にかえさせていただきます。

〈実施要項〉

主 催	福井県高文連英語部会 福井県英語研究会
後 援	福井県教育委員会 福井新聞社 NHK福井放送局
協 賛	財) げんでんふれあい福井財団
趣 旨	本県高等学校生徒の英語力の向上を図り、その発表力を高めることを目的とする。
日 時	令和元年9月28日(土) 午後1時30分から3時まで
会 場	県内各高等学校

〈実行委員〉

【委員長】 吉川 長利(勝山高)

【実行委員】	中井 慶子(大野高)	伊藤美智子(敦賀高)
	稲葉百合子(仁愛女子高)	田中 操(敦賀気比高)
	松宮 拓也(若狭高)	Adrianna Chandler(小浜中)
	Dayna Myrick(高浜中)	Jeremy Bernat(武生二中)
	Kali Pendle(松陵中)	Mary Antonette Arayata(鯖江高)
	Michael O'Neill(灯明寺中)	William Moore(武生商業高)
	Jake Gertz(勝山高)	Simon Woodgett(義務教育課)

〔入賞者一覧〕

		最優秀賞受賞者	優秀賞受賞者
A 部 門	1年	中 澤 拓 海 (敦 賀)	藤 澤 美 咲 (福 商)
	2年	石 上 奈々美 (坂 井)	大 川 玲 奈 (丹 南)
	3年	瀬 川 志 雄 (科学技術)	渡 辺 響 月 (科学技術)
B 部 門	1年	齋 木 祐 奈 (藤 島)	小 川 百 音 (武 生 東)
	2年	野 元 晴 佳 (敦賀気比)	塚 本 海 斗 (武 生)
	3年	山 下 華 奈 (仁 愛)	角 咲 都 (武 生 東)
C 部 門	1年	落 井 源 真 (武 生)	上 野 正 義 (敦賀気比)
	2年	青 山 綾 花 (敦 賀)	吉 村 歩 美 (武 生 東)
	3年	坪 田 陽 花 (仁 愛)	宮 下 孝一郎 (敦賀気比)

[参加者数一覧]

会場	1 A	2 A	3 A	1 B	2 B	3 B	1 C	2 C	3 C	合計	校内選考会 を含む数
勝 山				13			13			26	42
大 野								1	2	3	3
藤 島				9			6	1		15	15
羽 水									29	29	29
福 商	15				3			12		30	50
仁 愛				1	3	3	1	1	5	14	14
三 国					6	4		12	1	23	23
金 津				1	5			7		13	13
坂 井		18								19	19
科 技			7							7	7
足 羽				13			6	1		20	20
鯖 江					2					2	2
丹 南		34								34	54
丹 生					5	8		4	12	29	50
武 生				3	12		2	15		32	53
武生東				7	5	5	5	9	10	41	185
敦 賀	2			3	3		6	6		20	20
美 方				3		1				1	4
気 比				5	9	1	10	3	1	26	26
若 狭	2			1	6		5	2		16	16
若 狭 東		5								5	5
合 計	19	58	7	55	59	22	54	74	60	408	650

勝山、福商、丹生、丹南、武生、武生東は校内選考会を実施している。校内選考会を含む数とは校内選考会に参加した生徒全員の数

[各部門最優秀作品]

1 A部門最優秀作品

All I have to do is to thank

Takumi Nakazawa
Tsuruga High School

I want to say thank you to my parents because if my parents had not been married, I would not have been born. Sometimes my mother angry at me. However I ignore that. I know ignoring is bad. My mother understand it because I'm in rebellious period. My mother always said to me, "All you have to do is to thank". When I heard it for the first time, I couldn't understand. I thought "what does it mean? To my family or friends? Or teachers?" I didn't know what it did mean. I kept thinking.

One day, I found a book and a notebook. That book was about my home. There was a picture of my family. They were very smiley. I felt they thought "we will be happy. We have to make our children happy." Actually, I don't know, but they might have thought so. And then I read the notebook. It's written by my mother. It was about my growth. There was a message. That message was "we are coming back home. You are growing quickly." It was about when I was born. I was so small that I was kept being in hospital. When I read that message, I cried for a long time because I could understand her thought. It was to my parents. Because if my parents had not grown me very hard, I can't live today. Then my mother said to me, "Don't worry. You are not alone. I worried you because the doctor said 'we won't know whether your child can live tomorrow.' " Then my mother held me, and she said "do you want to something hot to eat?" I said "I want to eat miso soup." Miso soup is the most delicious food in my life. Even now. I love my mother's miso soup.

These stories made me strong. Usually I can't say thank you" but I want to say with courage. "Thanks for every day. Best regards from now on."

Dear Mother Earth

Nanami Ishigami
Sakai High School

I want to say thank you to the earth and think about what I can do for it. The reason is because I want the earth to be a safe place for my children in the future. I am going to talk about my experience which made me think about the kinds of issues the earth is facing now.

I went shopping with my mother. We got in the car and turned on the air conditioner during the night. The store was very bright and cool even though it was very hot outside. Then we went home by car. At that moment, I realized how convenient and comfortable my life was. We have an endless desire for a more convenient and comfortable life. The more convenient and comfortable our lives are, the more issues the earth is faced with. The earth is suffering in exchange for our convenient and comfortable lifestyles. Even if we sometimes damage the earth, it never fails to provide for us. What can we do for such a kind earth?

I wonder if it is impossible for us to give up the convenient and comfortable lifestyles we currently have. It might be possible to make an effort to sacrifice a little. I think it is important for everyone to think about the earth and sacrifice a little. These are a lot of small things we can do right now for the earth. We can turn off the lights when we do not need them. We can use bikes instead of cars. I want to be a person who can communicate with many people across the border and talk about what we can do for the earth. I believe that the combined efforts of many results is a great difference, and I want to say thank you to the earth from the bottom of my heart.

I want to say thank you to my mother

Shiyu Segawa

Kagakugijyutsu High School

I thank my mother. First, my mother makes breakfast and lunch every morning. I have a brother and a sister. My brother is an elementary school student and needs help in preparing for school. While he is preparing my sister and father makes lunch for me.

Second, my mother does laundry for the whole family every day. I belong to the soccer club. Soccer is an outdoor sports, so clothes get very dirty and always need to be cleaned. In addition, the laundry is very hard work because we are five people.

Third, she works for our life, making money and supporting the household. She works from morning until evening. And when we come back home she prepares dinner. The food my mother makes is very delicious and I like it very much.

In writing this sentence, I once again feel my gratitude to my mother. I am grateful to have been brought up by my mother and for my life. So, I want to work hard so I can get a job and give back to my parent. I really appreciate my mother.

Cleaning Prejudice

Yuna Saiki
Fujishima High School

Can you see me? Come closer and you would find me. Yes, I'm the person on the eye and wiping it. You won't be surprised at the scene that the man is cleaning. But you know, I'm cleaning human's eyes! Let me tell you about my special job.

Of course, I'm just a normal human. I live in America, and doing this job since I was 15 years old. I am leaving alone and need to earn money, so I started working at a cleaning company. On the first day, my boss told me to clean the sink in the kitchen. I was scared, but I couldn't refuse. My hands and legs were shaking! It took really a long time to finish cleaning it. When I was climbing up the sink after working, I grabbed wrong part and my body slid down the sink! I was almost at drain and likely to go down the pipe. Luckily, my boss found me and saved me from there. After that accident, I couldn't do anything by fear. My boss understood my feeling, but I know he would fire me soon. I need to find work! I became unhappy with my tiny body for the first time.

One day, one of my colleagues was complaining about his friend. He was very handsome and wearing nice clothes. I thought "Why is he complaining about such as perfect guy?" Few minutes later, I realized the reason. From the conversation, he was saying, "This company has too many elderly employees! They can't do any hard works. Do you really need them?...." He has prejudice to people that are weaker than him. "Maybe, he is thinking, "Who's that tiny one? There are no helpful people here." Suddenly he crouched down and said, "Something goes into my eyes! Hey you, tiny, you can take it out, right? Hurry up!" I was surprised and he picked me up and took me to his eye. "Let me see...oh, I found it!" I tried to pick it by my hand, but it stuck to the eye and wasn't easy. I took out my rag and wiped the eye. And then, it was finally removed. "Thank you, man." After this day, he became to think there are no unhelpful people. Also, he often visits our company and help caring elderly employees.

Did you realize what my job is? I think it's kind of magic. When I wipe one's eyes, that person becomes to see the things in good way. It means I can "clean prejudice, too. I'm doing this job because I want people to know a tiny person can be helpful in many ways. Since I found my special skill, I'm enjoying every moment. Call me whenever if you are stressed out by someone's prejudice.

Black Cat and Devil

Haruka Nomoto
Tsurugakehi High School

It is said that black cats bring a bad luck. Because of such a groundless rumor, a black cat named Roy was hated by people. They always kicked and verbally abused Roy, and he also came to hate human. But there was a person who loved Roy. Her name is Margaret. She was so kind enough to treat Roy's injuries and give him some milk. And Roy loved her, too.

One rainy night, Roy walked along the street. Then some men rushed out of darkness, and kicked him hard many times. Roy was beaten, unable to do anything about it. When the men went away from Roy, he was dying, and said in a weak voice, "I wish all humans would die ... " Then, a devil came to Roy lying and said, "Do you want to torture human?" Roy nodded, and the devil grinned. "So I'll give you a life, but there is one condition. Bring death to 666 people who are on this list. If you have done it in two months, I'll make you white, and you'll be loved by people around the world. But if you fail to, you'll die, and be hated after life, too. Do you agree with me?" Roy nodded again, and then, his body recovered at once. Roy looked around, only to find no one there. It had already stopped raining and bloody moon was there.

Since then, Roy killed a lot of people on the list. Elderly people, criminals, gangsters and so on. He killed in cruel ways in any case. When it had been two months since he had contract with the devil, he killed 665 people. And that day was the last day on the term of the contract, but he was hesitating to kill the last person on the list. It was ... Margaret who he loved so much. 'What should I do? I don't want to kill her!' He shouted. But time passed every moment. He detested the devil who made him kill her. Finally, he killed her, with tears in his yellow eyes.

After that, the devil came to him and made him white, with his face grinning. Then, Roy was loved by people. They gave him foods, milk, toys and lots of love. But Roy's heart was empty. Without Margaret, he had no reason for living. He cried every day, every moment. And ... he killed himself. And finally, he was able to become together with Margaret.

Mark's Job

Kana Yamashita
Jin-ai Girls' High School

Hey! I'm Mark. My job is cleaning human's eyes. I know, you can't imagine what my job is like, huh? So, I'm going to introduce my work and why I decided to do this job!

OK, first of all, when your eyes feel itchy or your eyes have eye mucus, how do you clean it? You may use eye drops or hands, right? However, sometimes you must feel lazy... Now it's the time that you should utilize me! Don't need to be afraid of what I do with your eyes. I put out dirty eye mucus, polish the iris of the eye, and comb your eyelash. If your eyes feel itchy, I can give your eyes brush. You thought that my job is too easy? No, my job is needed experienced skill. Well, you can't believe? OK, I will tell you about scary story which I had experienced. In the time, I was beginner about this job. The customer was sensitive to his eyes, but I never thought it and got up to his eye. Then he said, "What are you doing? I feel ticklish!!" I answered, "I haven't done anything yet! I'm just preparing a broom." Then what he immediately did is that he blinked! Can you guess what happen to me? I was crushed, and got broken arms and legs. How awful is that? That's why I said my job needs high skill.

What? You are interested in my job and want to know why I am doing this occupation? Don't hurry. Well, it's a long story. You want to know who I am, right? Obviously, I'm not a human because of the size. I'm not from this planet but I'm from Mercury. Yes, I'm an alien. Actually,, I was not like this appearance before. Well, I came to the earth with two friends and we realized that something was wrong with our spacecraft, then I wanted to get some parts of this. However, we had to talk with humans which have different language, so we made a medicine to become human. When I drank it, I transformed to small human. We wanted to make another medicine, but materials were not left. Then we came up with searching materials and we finally found out that the important material is mucus of human's eyes! The next problem is how we can get them a lot. We were thinking for a long time, then one of my friends suggested that we should collect mucus as a job! He is very intelligent, huh? Then three of us started this job. Now, we have collected mucus about 40% of what we need. I know we still have long distance.

Well, that's it! So can you help me get your big mucus on your left side of your eyes?

A step toward our dreams

Genshin Ochii
Takefu High School

Some high schools don't allow students to do a part-time job. However I think there are plenty of good points in doing it. I have three reasons to support my idea.

First, high school students can learn interaction with diverse people in their workplaces. Usually, students can talk with only their friends and their teachers in high school. On the other hand, in their workplaces, they will increase communication with the people who work in the same places. Through doing a part-time job, their communication competence skills will significantly be improved. In addition, students will be able to experience strictness and joy of working as an employee.

Second, they can understand what is suited for them. They may realize their own strong points by working. If they do various part-time jobs, they will gradually understand what they are fond of and what they would like to do. I think that is extremely important for high school students because understanding their aptitude can help pursue their dream. They should choose a job taking their aptitude into consideration. Working a part-time is necessary for their future.

Third, students will thank their parents for their working. Of course, students know that their parent work for them, but if they actually work, they will know how their parents work hard. In my career day, I thought working hard is tough. However, above all, I felt gratitude for my parents. From this valuable experience, I think students will have appreciation for parents.

These are my opinions to explain my idea. Through doing part-time jobs, they will have power to become a working member of society. Moreover they will search for their appropriate job and come to appreciate their parents, which usually is not known in daily life. By doing part-time jobs, high school students will be able to have power to take a step toward their dreams.

AI will help Japan

Ayaka Aoyama
Tsuruga High School

I believe that AI will help Japan. I have participated in English debate since last year. This year's topic is about working hours. Therefore, I looked into the present situation of Japanese workers, and I want to focus on the benefits of AI on labor. I have three reasons to support my opinion.

First, AI will help Japan improve its labor productivity. According to my research, Japanese labor productivity is in last place among the 7 major developed countries. I think it is too bad because Japanese workers can't finish their work even if they work hard. So I think AI can help with their work. For example, AI can perform calculations more quickly and correctly than humans do. Moreover, AI can memorize a lot of information, so AI can be developed by themselves through deep learning. As a result, AI can deal with difficult problems such as tasks from their bosses or complaints from customers. I think these operations will contribute to improving labor productivity.

Second, AI will solve a lack of work force. According to my research, the Japanese workforce will decline by 6 million workers by 2030. The aging society in Japan is growing. Therefore, it is a serious problem for Japan. Some people say that the number of foreign workers or elderly workers will increase, so Japan doesn't need to introduce AI. However, this idea is wrong. This is because, recently, foreign workers tend to work in other countries in order to work in better conditions. This means that Japanese working conditions are worse than those of other countries. If Japan wants to hire foreign workers, Japan should improve its working conditions. There are some ways to do that. As I wrote, improving labor productivity by introducing AI is a good way. Moreover, employing elderly people is also difficult because their physical strength is less than that of young people. Therefore, elderly people can't work as hard as young people. Thus, hiring foreign workers or elderly workers won't solve the lack of Japanese workforce. On the other hand, the introduction of AI can solve this problem because companies don't have to improve their conditions and pay salaries every month for AI. I think my idea is the easiest solution.

Third, workers' work-life balance will be improved. I think Japanese workers put too much priority on work. My father is a good example. He has often worked even on Saturdays and Sundays. When I was a child, it was impossible to play with him on holidays. I think work-life balance is very important for not only workers, but also their families because they can have a good time together. If Japan introduces AI, workers can leave their work to AI, so they can go home earlier than now. This will lead to better work-life balance and increase the happiness of Japanese people.

For these reasons, I think AI will help Japan. If Japan introduces it, its impact will be very big. Now Japan has a lot of labor problems, but they will be solved by AI. In order to do that, people must use it correctly. I believe that Japan will become further developed by introducing AI.

We Students' Insistence

Haruka Tsubota

Jin-ai Girls' High School

Many high school students tend to do part-time jobs in these days. Nothing to say, the reason why they want to work is to earn money by themselves and use it to buy something they want. However, I think there are good points on part-time work and they can find out many things through experience of the work.

First of all, it's a great opportunity for high school students to learn etiquette. In general, we students go to school and study there, however, we seldom have classes of learning manners. Also, it's hard for us to use honorific expressions. On the other hand, when they start to do part-time job, they got manuals from staff. According to one of my friends who works a part-time, she got a manual from store keeper and mainly it was written about how to talk to customers. What is more, she had an employment examination a few weeks ago, and she said that what she learned in her part-time job helped her in an interview.

Second, I consider that doing part-time jobs is a kind of the real world. Even if they are high school students, it doesn't matter for the other people. They are attended as one of shop staff by people, so if they make a mistake, it would be the shop's fault, for instance. This experience can show to the students working part-time how important it is to take responsibility. Moreover, they would try to communicate with the other people working with in order to prevent making a mistake. These are what laborers are doing in their companies.

While many students agree with doing part-time works, some adults don't because they think the student's duty is studying at school. It is obviously right. Nevertheless, in recent years, people who don't work even though they already graduated school are increasing. Those people are called NEETs. Although they have enough abilities to work in society, they don't work. It's since they are not good at communicating with the others so they are isolated. I have heard that however great intelligence people have, there is no meaning if their intelligence was not utilized well.

Therefore, it is not a waste for high school students to do part-time jobs. I believe it could be a profitable experience for us, and the experience obtaining in student days brings us more precious memories for our future.

◆高校英語弁論委員会

第59回福井県高等学校英語弁論大会報告

委員長 青 山 秀 樹（福井商業高校）

令和になり最初の県高校英語弁論大会が令和元年（2019年）10月5日（土）、福井県国際交流会館にて開催されました。

毎年書いてますが、いまだに間違っって申し込まれる学校がありますので、やはり部門についておさらいします。県大会の第1部、第2部の参加資格は全国大会に合わせています。第1部は主に英語圏での生活経験を十分に持たない生徒を対象とし、第2部は一定期間の英語圏での生活経験を持つ生徒も参加できる部門となっています。東海北陸大会へは、第1部と第2部の優勝者各1名が出場します。令和2年2月に行われる全国大会から、第2部の審査にQ&Aが加わることになりました。県大会の第2部でQ&Aがどう扱われるかは未決定です。今後の情報にご注意ください。また第3部は福井独自の部で、主に職業系学科生徒を対象としています。英語の単位数が12単位以下の学校、学科の生徒が対象となっています。

第1部には14校から25名の参加がありました。第2部には6校から9名の参加がありました。第1部1位の高志高の鈴木さん、第2部1位の仁愛女子高の鈴木さんのスピーチが自分の内面と向き合う内容で、共に容姿について言及している部分があり、重なっている部分が興味深かったです。発音、間合いや丁寧な話し方、表情の豊かさなど、聴衆を引き付けるのに十分だったと考えます。それぞれの部門の優勝者の原稿は後のページに載せてありますので、ご覧ください。

例年第3部の参加者が少なく、困っているのですが、今年は3校から5名の参加があり、少しだけ復活しました。今年だけの現象にせず、今後も参加者が増えることを願います。県大会の入賞の可能性が一番高く、賞状やトロフィーをもらえる絶好のチャンスです。ライオンズクラブ海外派遣生の選考会にも参加できる可能性が高いということでもあり、お徳感がいっぱいです。各学校に事情があるのはよくわかりますが、英語好きな生徒を是非発掘してください。第3部の継続の是非については委員会でも毎年議題に上がるところなのです。

今年度は令和元年11月17日（日）、愛知県で東海北陸ブロック大会が開催されました。この大会に、優勝した高志高の鈴木さん、仁愛女子高の鈴木さんが出場しました。二人ともに奨励賞を受賞しました。平成19年度に第1回全国大会が開催されました。今年度は第13回になります。そのなかで、いままでに本県から東海北陸ブロック大会を勝ち抜き、全国大会にすすんだのは、第1部で1名、第2部で1名のみとなっています。

今年の開催が第59回になりました。計算すると、諸先輩方が手弁当持参で第1回英語弁論大会を開催されたのが、昭和36年（1961年）ということになります。昭和平成令和と、3つの時代にまたがる歴史と伝統の県高校英語弁論大会に、今年もさまざまなご協力ありがとうございました。

1. 大会要項

第59回福井県高等学校英語弁論大会

1. 主催 福井県高文連英語部会 福井県英語研究会
ライオンズクラブ国際協会334-D地区5R
2. 後援 福井県教育委員会 福井新聞社 福井テレビ
3. 日時 令和元年10月5日(土) 午前9時30分より
4. 会場 福井県国際交流会館
5. 委員・審査員

委員 ◎青山 秀樹(福井商高) 永田乃理子(丹生高) 笠松佳代子(丸岡高)
西口 佳光(武生高) 西尾 康弘(道守高) 山口隆子(丹生高)
吉田 充宏(高志高)

審査員

1部 紺渡 弘幸(仁愛大教授) Simon Woodgett(県庁)
長岡 亜生(福井県立大学准教授) Carissa Sprague(金津中)

2部3部 吉田 三郎(福井高専教授) Sarah Dake(朝日中)
野本 尚美(仁愛短大教授) William Tjipto(小浜二中)
6. 本年度(令和元年度)参加者数

部 門	参加人数	参 加 校
第1部	25	三国、藤島、高志、足羽、仁愛、福井商業、福井特別支援 鯖江、丹生、武生、武生東、敦賀、美方、若狭 14校
第2部	9	藤島、高志、足羽、仁愛、武生東、若狭 6校
第3部	5	坂井、福井商業、福井農林 3校
合 計	39	

7. 表彰

第1位、第2位、第3位…賞状、トロフィーまたは盾
優良賞…賞状のみ ※優良賞 各部門参加者の半数程度

8. 海外派遣生

- ・入賞者の中から若干名、ライオンズクラブが海外派遣生を選びます。
- ・派遣は来年度の夏休み中、約2週間～1ヶ月の予定です。
- ・地域によって年齢条件が異なります。

9. 参加資格附則

- 1部、2部の部門は全国大会の参加資格に則っております。
- 1部は次の(a)(b)(c)に該当しない生徒
- 2部は次の(a)(b)(c)に該当する生徒や1部の有資格者だが2部に出場したい生徒
- 3部は英語の三年間の必修単位数が12単位以下の生徒

- (a) 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6ヶ月以上、英語圏（英語を第一言語、または公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。（英語圏詳細については全英連ホームページ参照。）
- (b) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
- (c) 保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

2. 入賞者

部門	賞	氏 名	学 校	学年	演 題
第1部	1位	鈴木 彩日	高 志	2	You Are You, I Am I
	2位	野原菜々子	藤 島	2	Embrace Diversity: Embrace the World
	3位	高橋 昂大	三 国	2	What Makes a Good Leader?
	優良賞	山田 愛莉	福井特支	1	Silence Is Not Always Golden
	優良賞	塚本七鈴夏	武 生	2	To Reduce Death from Overwork in Japan
	優良賞	木戸 悠由	福井商業	2	Star Board!
	優良賞	木下 莉子	仁愛女子	1	Keep Moving towards Your Purpose
	優良賞	湊 桜子	武 生	1	What We Can Do Now
	優良賞	西川 涼子	仁愛女子	1	Aren't You Addicted?
	優良賞	土谷 勇斗	武 生	2	YABAI Now
	優良賞	渡辺 愛結	福井商業	2	The Last Straw
	優良賞	竹生陽向子	高 志	2	Hometown
第2部	1位	鈴木 友梨	仁愛女子	3	A Color of My Own
	2位	工藤 拳斗	武 生 東	2	Behind Your Back
	3位	水谷 桜子	仁愛女子	3	More than Blood
	優良賞	高木 美紀	足 羽	2	Poverty
第3部	1位	守屋 愛	坂 井	2	The Power of Action
	2位	土橋 昌代	福井農林	2	How I Changed
	3位	西山 紀悠	福井商業	1	Believing Oneself and Doing One's Best

3. 優秀作品

第1部第1位

You are You, I am I

SUZUKI Ayaka

Koshi Senior High School

"How small you are." "Are you really a 6th grade student?" "I couldn't see you because you were too small." I was constantly told such things from kindergarten to the 8th grade. This was my life. I was the smallest student not only in my class but also in my school. Every first meeting, such as entrance ceremonies, everyone looked at me with a surprised look. When I became a junior high school student, I was only 130 centimeters tall. The average height of the 7th grade student is 153cm. Wherever I went, people called me "SMALL". Some might have meant it in a friendly way, but it didn't feel like that to me. Every comment hurt my feelings, and I became too sensitive with the word "small". To avoid being called "small" and protect my feelings, I became a person with a foul mouth. To fight back, for example, when a boy called me chicken because of my short height, I said to him, "You are an idiot. I'm smart." My attitude became so bad.

When I was a 9th grader, I found one girl smaller than me in another class. She was a tall girl before, but she seemed to have stopped growing. Time passed, and I had grown taller than her. My pace of growth was just a little bit slower than other girls. I felt superior to her. My height complex disappeared. Instead, I started having a superiority complex to girls shorter than me. Only the feeling of superiority to others helped me get rid of my complex. When I noticed it, I was so shocked and disappointed in myself because I had become the same as the people who made fun of my height. This made me wonder about people who are tall, big, thin, and so on. They might have some kind of complex, too. Being tall was my great longing, but maybe tall people don't like to be told how tall they are, either. In fact, I have said to some tall girls with good intentions how tall they are. One of them is my classmate now, so the other day I asked her how she feels when she is called "tall". She said frankly, "I'm not very happy about it. I envy you." I was surprised and felt very bad that I once called her "tall". I learned that "How tall you are!" was just the same as "How short you are!" They are both insensitive and hurtful comments.

To see how Japanese girls are feeling about how they look, I went to the Internet. I found one research study done in 2017 by Unilever's Beauty Care Brand. According to the research, 93% of Japanese teenage girls didn't have any confidence in their appearances. I was surprised. To see if it is true, I asked all of my female classmates this question; Do you have any complex about your appearance? If you do, what causes your complex? Now can you guess how many answered yes? All of them. None of them have confidence in their appearances. They have a complex about their nose, face, and hair. Are you surprised to hear this? Now girls, do you have any complex about how you look? You don't have to raise your hand. I guess many of you do. And many of you have been hurt by others' comments on your complex before. This is a sad result, and a sad reality, isn't it?

Why don't we stop speaking about our physical appearances? Even when what you say comes out of your good intention, you must remember you might hurt the other person. I am not talking only about girls. I am talking about all of us. Our bodies are what our parents gave us. It doesn't matter if we don't meet society's expectations. You are you, and I am I. What we need is to think about ourselves positively and live positively. Let's not compare each other. Then life would be easier. Just look at me. Don't I look very happy? Yes, I am a happy girl free from any complex.

A Color of My Own

SUZUKI Yuri

Jin-ai Girls' Senior High School

Have you ever compared yourself with others? My answer to the question is "YES." How about you? I would guess most of you have, too. Can comparing ourselves with others bring any benefits, or could it cause harm?

I believe that comparison can help us motivate ourselves. For example, imagine that you are quite a fast runner, but unfortunately, there is another runner who runs a little bit faster than you. Then, you would try harder to beat that person. In another case, if your teacher speaks good English, you want to be as good an English speaker as the teacher in the future and you would study harder. In these cases, you are inspired by others and try to do your best thanks to comparisons.

However, two people taught me more about comparing. One of them is my host mother, who I lived with when I studied abroad last year. When I was shopping with her, I found some colorful clothes. I said, "Oh, it's so fabulous and I want it, but it won't look good on me because I'm too short and not cute. The model looks so stunning in it." Then she said, "What you are saying is rubbish! I think you are cute and there are many people who wish to be short like you. Of course, the model has many good points about her looks, but so do you. If you want the clothing, go get it!" I was surprised when I heard her words.

Her statements made me realize that I had felt inferior by comparing myself with others unconsciously. I also noticed it was not only about my appearance in which I felt little confidence. I didn't like myself because of my lower academic achievement at school, my quiet voice, and shy personality. As you can see, although comparisons can motivate us, they can also discourage us if made in a wrong way.

The other person who taught me something important about comparing is my American English teacher. I have liked English since I was little, but I used to speak in a small voice because I was not confident. When I confessed to him how I felt, he said, "Your English has improved a lot, compared to the time when I first met you two years ago. It is due to your effort." His heart-warming encouragement taught me another type of comparison; comparing my present self with my previous self. In this way, I can see my growth, which helps me become more confident and satisfied with myself.

Those two episodes reminded me of a Japanese saying, which is literally translated "if there are ten people, there are ten colors." This saying may probably be translated in different ways, but I interpret this as, "Everyone is unique. It is O.K. to make ourselves shine in our own color." I would say that I'm like a chameleon. I have made my color brighter by comparing myself with people I admire and making an effort. Unfortunately, however, at times I might have dulled my color by comparing myself with others and feeling inferior. Recently I have begun comparing my current self with what I was like in the past and I can see my shining color. That's why I am standing here today on the stage, sharing my idea with you. This is something which I have never done before. I'm sure my color will be much more beautiful and much brighter when I finish this speech.

I hope you, too, will find a color of your own. Let's love our original color. Oh, and by the way, remember those colorful clothes I was thinking about buying? Well, I did buy them... and now I think I look great in them.

The Power of Action

MORIYA Megumi
Sakai Senior High School

Dear bystanders,

If a person asked you, "What do you think about bullying?" How would you answer? That "It is not good? I cannot understand why people do it?" I think so as well.

But lately we see news about deaths caused by bullying. Why is this the case? I thought about it for quite some time and noticed one possibility. One reason is because people do not say "stop!"

Do you know about group psychology? I think it is very scary. It allows people to overlook bullying and become bystanders. People will act according to the behavior of the people around them. For example, there are "A" and "B" opinions. Even if a person thinks "A," if everyone around them chooses "B," that same person will likely act according to "B." The same applies for bullying. Even if people want to help, if they see that others do not help, they will also not help.

In fact, when I was bullied, the people around me simply watched. My friends did not try to stop it. I learned that I could not confide even in my friends. I felt that I was not needed and that maybe it was better if I was not here. I was very lonely. I was bullied when going to and from school. Both my friends and the bullies lived in the same district that I did. My friends did not help me because they did not want to be bullied as well.

I could not believe in anybody except my family. I became very bitter because I was bullied, my friends betrayed me, and the people around me did not help me.

Have you heard of the picture book by the name of "Unhappy Child?" In the book we can see the daily life of an unhappy girl. At the end, she is hit by a car driven by her father and dies. On the last page there is a message from the author that states, "Did you notice that there is a devil on every page?" As you can see, there was a devil in all of the pictures. But is the devil that the author is talking about the only devil to be found? You can also say that the reader who simply watches and does not help is also a devil. From the victim's point of view, the bystander is many times more devilish than you think. Even though they understand that it is not good, they do not act. It is my desire that more bystanders take action and become angels to victims. Together we can all stay positive and fight.

Whether you have heard my argument or not, when friends and others are bullied I want people to stand together and fight against it. Thank you!

◆中学校英語弁論委員会

令和元(平成31)年度福井県中学校英語弁論大会報告

委員長 園 井 圭 介 (三国中学校)

去る10月3日、無事に第62回福井県中学校英語弁論大会を終了することができました。各校ともに学校祭や秋季新人大会によりご多忙な中での校内選考や発表準備となったと思います。おかげさまで今年も生徒56名の参加となりました。また、全参加者の中には2年次に各地区の英語セミナーや英語留学プログラムを経験した生徒が多いように思われ、各地区の先生方のご尽力を感じました。各校の先生方をはじめ、関係者の皆様にまず、心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

さて、今年の発表者の内容について見ると、近づくオリンピックをテーマとして設定しているものなど、身近な話題からの主張という作文が多く見受けられたように感じます。また、ジェスチャーやパフォーマンスよりも内容重視の主張が多かったように思います。

優勝を勝ち取った万葉中学校の大塚さんは笑顔とテンポのよい英語で会場の雰囲気を変えました。内容は幼少期より習っていたフラダンスを通して感じた「'ohana」(信用できる仲間や家族)の存在の大きさや感謝の思いについてでした。温かい気持ちになるようなスピーチで、観衆の心を掴んでいました。

2位となった敦賀気比高等学校附属中学校の藤田くんは昆虫への熱い思いを「No insects, No lives」「No insects, No world」など熱い言葉で表現していました。ユーモアを取り入れ、開場を沸かせる場面もありました。同じく2位の末本さんは、尊敬する祖父から学んだ「チャレンジすることの大切さ」を彼女の経験を交えながら話してくれました。前向きな彼女の思いが心に響くスピーチでした。

この他にもユーモア溢れ、会場の雰囲気を明るくしてくれた発表も多く、関わっていただいた先生方のご尽力が伝わってきました。今年度も審査では長時間に渡り、お待ちいただく結果となりましたことお詫び申し上げます。また次年度への課題としていきたいと考えております。入賞者3名は11月28日に行われた高円宮杯全国大会英語弁論大会に参加しました。

英語弁論大会の運営にご協力頂き、ありがとうございました。

【入賞者】

優勝	大塚 未裕	(万葉中学校)	'ohana
2位	藤田 昂生	(敦賀気比高等学校附属中学校)	Insects Save the World
3位	末本 あおい	(中央中学校)	A Special Heart

'ohana

Manyo J.H.S.

Otsuka Miyu

Aloha! I am a dancer, and I especially love to hula dance. I love it so much that I wish I could dance on stage today, but I can't because this is a speech contest, not a dance tournament. Hula captured my heart, but it was actually my mother's influence that made me fall in love with it. My parents discovered hula on their honeymoon to Hawaii and my mother has loved it since then. After returning to Japan, she heard that hula dancing is good for a diet. So she started to dance hula. When I saw her practicing, I started to feel like I wanted to do it, too. So, I began dancing when I was 3 years old. Through hula dancing, I learned a lot about Hawaiian culture and came across the word 'ohana. When I heard it for the first time, I was surprised because in Japanese ohana means flower. I felt curious, so I asked my teacher what it meant. She told me that it means family in Hawaiian.

Who do you think of when you hear the word family? Parents? A brother? A sister? The only way I thought of family was a blood relative. However, to Hawaiians it means not only family by blood, but also people connected with the trust that spreads around them and their friends. I wanted to understand the meaning of 'ohana through hula and the Hawaiian spirit.

Two years ago, I won the famous Hula'Oni E Kansai tournament, and then participated in Hawaii as the representative of Japan. My teachers, family members, and hula sisters supported me. My teacher's mentor, Kumu, took valuable time and taught me extra lessons. Another hula sister also arranged local musicians and guides for me. At first to those locals, I was just a girl from Japan, traveling far from my home. However, when they met me they told me, "You are an important 'ohana to us". They were willing to help so easily and calmed me with simple words. We were connected by our love of dance and friendship. At that time, I think I finally understood the true meaning of that word through my own experience. To me, 'ohana means caring family, friends and neighbors, too. It's packed with wonderful teachings from Hawaiian people who value their families through "strong, gentle and pure love".

Do you know about the Ertu?rul incident? When I heard this story, I thought that Japan had the spirit of 'ohana. It's a tragic event that occurred in 1890, when an embassy ship from Turkey sank near Wakayama Prefecture due to a typhoon. Over 500 crew members died. Can you imagine how scared they would be? They were foreigners who had never heard our language. However, the people of Oshima, Wakayama Prefecture at that time were devoted to the rescue and nursing of the crew. Thanks to them, 69 people were able to return home to Turkey safely. Since then, Japan and Turkey have shared a strong bond.

In recent years, I have seen and heard a lot of sad news on TV and in newspapers. I feel that the number of people who don't value their relationships with others, or even forget their connection with their family and their gratitude, has weakened our spirit. How do you think we can solve this? My favourite phrase that I learned from a Hawaiian teacher is, "ohana is woven by beautiful words like

a lei". I love this phrase. You can create your own 'ohana by weaving together meaningful words and feelings like a lei's flowers. If you communicate with others every day and build a wonderful relationship of trust, you will be able to feel the Hawaiian spirit of family, too. Today, we all share this contest. If your neighbor is nervous, give them strength. If you feel lonely, remember that your family cheers for you.

I am able to stand here thanks to the loving 'ohana that has supported me. To them, mahalo. To everyone here, let's have 'ohana in our hearts and let it bloom!

Thank you for listening.

Insects Save the World!

Tsuruga Kehi Junior High School

Ibuki Fujita

What is your dream? Is it to become a soccer player or to take a round-the-world trip? My dream is to become an entomologist and save the endangered insects. No insects, No life. My life cannot be told without insects. When I was in first grade, I became fond of insects after I observed them in a class called "Let's Make Friends with Insects." Since then, I have kept many kinds of insects, such as Beetles, ants, bees and even cockroaches.

Have you heard of the Nakaikemi Wetland? It is a wetland surrounded by mountains in Tsuruga City. It has extremely high biodiversity, and in 2012, it was registered with the Ramsar Convention which was created to protect wetland ecosystems. About 1,500 kinds of insects have been found there, including many endangered species such as Kirosanae, Namigenngorou and gamushi. Last summer, I participated in fieldwork there with my school for the first time. Within only two and a half hours, I was able to see 37 kinds of insects such as Chotombo which have wings like jewelry. It was amazing. I felt like I was lost in the country of insects. However, I noticed that even in Nakaikemi, whose ecosystem is protected, there were many problems, such as the reduction of rare species, and the reproduction of alien species.

According to research by a group of German insect lovers, the number of insects now is 79% less than it was in 1994. The reasons for this decline are said to be pesticides, invasion of alien species, climate change, deforestation and pollution. These five factors are caused by irresponsible human behavior. Humans use a large amount of pesticides to improve farming efficiency without considering the effects on insects. In addition, insects from other countries can invade and disrupt an ecosystem. As for climate change, we use too much fossil fuels such as coal and oil, which leads to global warming. Furthermore, regarding deforestation, we cut more lumber than necessary and are rapidly destroying insects' homes. Also, river pollution from factory drainage kills many insects living in the water. I am angry with human selfishness. I think modernization promotes the sacrifice of insects. You may think that insects are not so important, but in fact, insects are essential to our lives.

First, they help pollinate 90% of wild plants in the world. So, if insects were gone, most plants would not live. Then, the herbivores would become extinct and carnivores that feed on them would become extinct, too. In other words, the reduction of insects leads to the death of all creatures.

Second, there is the problem of food shortages. One-third of the world's food supply depends on insect pollination. Therefore, the decrease of insects means a lack of food worldwide.

In fact, entomologists say that humans could only survive for as long as 10 years after insects disappear. Insects are decreasing rapidly now, so we have to save them. If we don't, humans will eventually be endangered, too. We must eliminate pesticides, limit deforestation, and save insects also to save humans. The "life" of "No insects, No life" is not just for me who likes insects, but it's "lives" for everyone. I hope that each one of you will keep in mind the small but great life of the insects, and let me tell you again. No insects, No lives. No insects, No world!

A Special Heart

Chuo Junior High School

Aoi Suemoto

What must you do to improve yourself? To get a special kind of heart?

How can you challenge yourself to make a better future for everyone?

I didn't know the answers to these questions before because I didn't have the heart to find them.

I am a junior high school student, and I have many things to do every day. I'm always studying at school, joining club activities, and doing homework. Sometimes I get exhausted, and I just want to relax instead of seeking out more answers, but one day, I found a man who already had the answers. He's a man with a heart that can face challenges and succeed. That man is my grandfather.

He grew up in Echizen town, right next to where I grew up, but we've lived very different lives. When I was 10 years old, but he was already working to support his family. When he grew up, he moved to Tokyo to find work, but that was just the beginning for him. He has lived through Hokkaido winters, Nagoya summers, and served in the Japanese Self Defense Forces in Yokosuka.

He is 82 years old now, but he isn't the same as other people his age. He is a craftsman who refines glasses frames by hand and he works hard every day. He's also a marathon runner, and even ran in the Fukui Marathon in May. He's also in college, and has been studying ancient Japanese literature like The Kaidoki there. He strives to do his best in everything he does, wherever he is.

My family has lived in many places too, and my dream is to live in another country like Kenya, Chile, or Austria one day. I want to see new cultures and eat delicious food, but when I thought about what I'd need to achieve that dream, I became scared. I wasn't born with a heart like my grandfather's. I wasn't able to challenge things fearlessly like he did. There were a lot of times in the past when I wanted to try something new, but I was afraid of making mistakes or getting laughed at. So, I decided to talk to my grandfather about it.

I asked him, "how can I get a heart like yours?" He just laughed, and said he didn't have a special heart. He said, "if you work hard, you will improve. You live in a good time where you can challenge many things." I've always been concerned about my future, but he told me "only you can create a future you like."

I didn't understand at first, but then I remembered when he told me about his childhood. He only knew life at war until he was 10. There was no food, and he was always hungry. His father died in the war, so his family was very poor. He had to work every day in a dirty factory just to survive. He gave up on his dream to be an engineer because he couldn't go to school. There was no opportunity for him to challenge the things he wanted to. However, he's an optimist, and lived life with great hope, worked hard, and did his best to make a better future.

I realized that I had always misunderstood. My grandfather wasn't born with a special heart, he made it himself. He sets goals and makes progress towards them. He made his heart special himself, and so will I. I'm proud of him, so I've set a goal of making my heart a little more like his.

I'm no longer afraid of making mistakes or being laughed at, I'm only afraid of losing the chance to create a better future. Now is a good time to challenge many things thanks to people like my grandfather. In order to make my dreams come true, I set a goal to speak foreign languages, and I started studying French in addition to English. I will strive to take advantage of the opportunities I've been given. His words are important to me, so I will keep them close and continue to seek the heart he inspired me to achieve.



部長 窪 田 乃里子（越前市南越中学校）

日頃より英語放送テスト部の活動に対しまして、先生方からの温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今年度は福井県内全中学校と高校の生徒を合わせて約23,000人の生徒のために放送テストをご採用いただきました。ありがとうございました。

さて、英語放送テスト部は、今年度5名の新規部員を迎え、29名のメンバーで活動をしてきました。育児休暇から部員に復帰された方や一度部員を辞められて復帰された方も含めて、夏休みなどの会議では、良い問題を作成しようと意見を出し合いながら頑張ってきました。今年度も昨年と同様に、問題作成と録音の会議を午前から行い、会議の回数を減らすことで部員の負担軽減に努めました。日々の学校生活において、多忙を極める中で部会等に参加して下さった部員の方々のおかげで、今年度分の作成が全て終了いたしました。ありがとうございました。

また、これまでの問題作成につきまして、いつも正確に仕事をしてくださり、こちらからの要望にも真摯に対応してくださっているリンク・コーポレーション（印刷担当）さんと名響社（録音・CD作成担当）さんには、厚くお礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

以下、本部会の令和元年度の活動につきましてご報告します。

1. 令和元年度 各問題の出題範囲・発行回数・発送日

種別	対象（発送日）	第1回（5月14日発送）	第2回（11月6日発送）	第3回（1月10日発送）
A	中学1年生	(NH1) P.4 Hi, English 1～ (NH1) P.45 まとめと練習2 1回のみカラー印刷	P. 46 Unit4 ～ P. 83 Daily Scene 3	P. 84 Unit 8 ～ P.121 Unit 11
B	中学2年生	(NH1) P.122 Daily Scene 7～ (NH2) P. 49 Presentation	P. 50 Let's Read 1 ～ P. 79 Daily Scene 5	P. 80 Unit6 ～ P.109 Unit7
C	中学3年生 高校1年生	(NH2) P.110 Daily Scene 7 ～ (NH3) P. 33 Daily Scene 2	P. 34 Unit3 ～ P. 81 Daily Scene 5	P. 82 Unit6 ～ P.111 Let's Read 3
D	高校1年生 高校2年生	※H30年度より、D問題を発行。R元年度は発行を一時中止。 ※D部会の活動として、Dの過去問題集を作成する。		

2. 令和元年度 会議実施（一部計画）

・問題形式や活動方針に関する全体会議	2回（6月，3月）
・問題作成会議	6回（夏季・冬季休業中）
・録音および校正会	6回（録音会議は9月，10月，2月の土曜日 ／校正会議は各録音会議の3週間後）
・結果検討会議	1回（正答率の低い問題について検討）
・チーフクラス方針会	3回（必要に応じて随時）

3. 問題作成について

これまで放送テスト部会は、進化・変化し続ける英語教育や試験等への対応も含めて、対話のターン数の増加、問題の語数の増加、推論発問の導入などに取り組んできました。今年度も昨年度に引き続き、中学生用の問題については、語彙や使用場面のバリエーションを増やし、様々な視点からの新しい問題を作成していこうと努めてきました。これまでは、中学3年生用C問題の第3回問4（長文問題）のみで、英問英答の問題を作成していましたが、今年度は、C問題の第2回、第3回の問4（長文問題）において、英問英答の問題を出題しました。今後は、新学習指導要領が実施されることで、放送テストで利用できる単語や表現の幅が広がると考えられます。そのために、文部科学省からの教材である『We can!』やこれから小学校で使用される英語の教科書を参考にしながら、部員が協力して新学習指導要領に対応できる準備を進めていきたいと考えています。また、長文問題にチャレンジ問題として、記述式（日本語の穴埋め形式）などの問題を付加していくことも検討しています。記述式の問題を付加することになると、問題形式や印刷、結果検討などにも影響が出ることが予想されるので、部会で協議しながら準備を進めていきたいと思います。

4. 過去問題集について

2年前より、主に高校教員で編集委員を組織し、D問題の過去問題集の作成に向けて、校正などの準備を進めてきました。昨年度は、17校の高校で採用していただき、約2100部発行することができましたが、今年度は採用の申し込み数が2,000部に達しなかったため発行しませんでした。

5. 結果検討について

本部会は問題を作るだけでなく、その後に正答率やIDI（上位25%と下位25%の正答率の差）の統計を算出し、正答率が低かった問題については部内で検討しています。今年度も3月末に結果検討会議を開き、問題改善に向けて正答率やIDIなどのデータをもとに検討会を行ないました。合本については、昨年度と同様に、データは掲載しますが、正答率の低い問題についてのコメントは掲載しません。

6. 令和元年度 部員および役割分担

No	名 前	学校名	問題作成	その他の役割
1	嶋田 晃士	明倫中学校	C	校正・結果検討
2	松田 祐樹	光陽中学校	C	校正・結果検討, 校正アシスタント
3	兼井 智加	附属義務教育学校	A	校正・結果検討
4	高田由紀子	成和中学校	—	校正・結果検討, 問題作成チーフ
5	河合 創	大東中学校	B	録音チーフディレクター
6	ハート真由美	大東中学校	A	校正・結果検討
7	窪田 聡美	川西中学校	C	校正・結果検討
8	栗田由紀枝	森田中学校	—	校正チーフ
9	鋸谷 卓磨	社中学校	A	録音アシスタントディレクター
10	桑原ゆうき	清水中学校	B	校正・結果検討
11	福田 泰子	朝日中学校	B	校正・結果検討, チーフアナウンサー
12	太田 萌	万葉中学校	A	校正・結果検討, アシスタントアナウンサー
13	鈴木 迪	武生第一中学校	A	校正・結果検討
14	木戸美樹子	美浜中学校	C	校正・結果検討
15	坪川 紘子	灯明寺中学校	B	校正・結果検討
16	佐々木祥子	中央中学校	A	校正・結果検討
17	中村 真士	武生第五中学校	B	校正・結果検討
18	松村 美里	武生第三中学校	B	校正・結果検討
19	笠松 政世	進明中学校	—	校正・結果検討, 問題作成チーフ
20	山田 恵莉	武生第二中学校	B	校正・結果検討
21	竹澤 紗貴	至民中学校	C	校正・結果検討
22	林 香苗	足羽高校	C	校正・結果検討
23	宇野 達紀	敦賀高校	—	校正・結果検討
24	大村 昭友	武生高校（定）	—	校正・結果検討チーフ
25	田嶋 由美	丸岡高校	過去問	校正・結果検討アシスタント
26	森 一生	武生東高校	過去問	過去問作成チーフ, 校正・結果検討
27	窪田乃里子	南越中学校	(事務局)	事務局（部長）
28	野崎 恵美	社中学校	(事務局)	事務局（副部長・会計等）
29	伊藤美智子	敦賀高校	(事務局)	事務局（副部長・文書発送等）

部員一同、福井県の生徒のためにがんばります。

長年にわたりまして皆様にお使いいただいている放送テストですが、今後も、様々な要望に応えながら発展していきます。ぜひその一翼を担ってみたいと思う方は、南越中の窪田、または放送テスト部員までご連絡ください。そして放送テスト部員となっただき、持っている能力やセンスを、福井県の子どもたちのために発揮していただければ幸いです。今後も、今の時代に合った問題作成を心がけていきたいと思いますので、現場の先生方からご意見をぜひお聞かせください。貴重なご意見を参考にしながら、問題改善に努めていきたいと思っています。



部長 稲 葉 芳 明 (大野高校)

日頃より広報部の活動に暖かい御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

5年前の『会報 第73号』で大幅リニューアルを試みて以来、先生方により一層熱心に読んでいただけるようになったと感じており、部員一同深く感謝致しております。

昨年度は、英語研究会の財政悪化による事業見直し・縮小の方針の下、2017年9月発行第40号をもって『英研ニュース』を休刊いたしました。従来『英研ニュース』に掲載されていた記事・記録は、『会報』や英研ホームページでカバーすべく、今後も工夫に努めてまいります。

『会報』では第73号から「英語科紹介」コーナーを復活して、第73号で奥越地区、第74号で坂井地区、第75号・第76号で丹南地区、第77号で敦賀市・三方郡・三方上中郡の学校紹介をしてまいりました。今回第78号では、小浜市・おおい町・高浜町の学校紹介を掲載しております。

今後も、会員の皆様の御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

1. 令和元年度事業報告

- 1) 福井県英語研究会会員名簿発行 (7月、650部)
- 2) 『会報』第78号発行 (2020年3月、650部)
- 3) 福井県英語研究会ホームページ管理運営

2. 令和元年度広報部員

部 長	稲 葉 芳 明 (大野高校)
副部長	森 谷 町 子 (大野高校)
部 員	織 田 昌 宏 (大野高校)
	島 田 敏 宏 (金津高校)
	川 田 裕 貴 (開成中学校)



研究部 活動報告

部長 水 木 毅（武生東高校）

日頃より研究部の活動に対し、ご理解とご協力をいただき誠に有り難うございます。本年度も、中学生用読解教材『リーディングテスト』、問題集『Let's Read』、高校生用読解教材『Reading for Message』、問題集『Let's Read for Message』、および中高橋渡し教材『Bridging』を多くの学校でご利用いただきました。改めてお礼申し上げます。

リーディングテスト委員会では、これまで通り教科書テーマや言語材料に関連したリーディング教材を作成してきました。市販問題にはない内容の面白さ、濃さ、英文量であると自負しております。作成の際は、昨今の入試問題の傾向に対応してやや語数を増やすとともに、設問に工夫を加えて思考を必要とするような問題を作成してきました。生徒の力試しに使用していただいたり、ポストリーディングとして使用して頂いたりなど様々な活用法が考えられます。『Let's Read A,B,C』も例年通り改訂を加える予定です。週末課題としてや長期休暇中の課題、もしくは授業の最初5分に使用していただくなど、様々にご活用いただけたと思います。

また、リサーチ委員会の方では例年通り Skimming、Scanning、Guessing の3種類のリーディング技能養成問題（バラテスト）を作成しました。毎回先生方が創意工夫を凝らして作成しております。生徒の課題として、教材としてご活用下さい。冊子の『Let's Read for Message』では過去に作成したバラテストの中から選りすぐりの作品を種類別に集約しました。どちらの教材も生徒が意欲的に取り組めるものができあがったとの評価を多くの高校の先生方からいただいております。

T E F L 委員会では、パフォーマンス評価の研究に取り組みました。中・高の教員がそれぞれの学校の実状に合わせて、パフォーマンステストを実施するまでの手立て・取り組みと評価の仕方についてモデルプランを考えました。4技能統合型の授業や、ペーパーテストだけでは測れない能力の評価は感心の高い項目であると思います。T E F L 委員会では、これらの点について、パフォーマンス評価を研究することで手立てが見つかるのではないかと考え、取り組んでいます。原稿に目を通していただき、パフォーマンス評価を妥当なものとするために、先生方のご意見をお聞かせ願えると大変うれしいです。次年度中に発行される合本を是非お読みください。

最後に、研究部の活動はほとんどが夜間ですが、作問能力の向上や、授業実践についての省察、悩み事相談、仲間の輪を広げるなどたくさんのメリットがあります。より多くの先生方にこの仲間に加わって頂くことで活動も活性化されます。少しでも興味がおありの方はお近くの研究部員までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

以下、本年度研究部の先生方です。みなさんお忙しい中、熱心に活動していただきました。

令和元年度研究部 部員名簿

研究部（オフィス）

職	名前	学校名
部 長	水木 毅	武生東高校
副 部 長	村 昭信	金津高校
副 部 長	辻 智生	敦賀高校

リーディングテスト委員会（嶺北）

職	名前	学校名
委 員 長	澤田 亜紀	足羽中学校
副委員長	進士 祐介	高志高校
委 員	伊藤江莉奈	足羽中学校
委 員	源藤 里佳	丸岡南中学校
委 員	山内 翔太	殿下中学校
委 員	濱下恵理子	越廼中学校
委 員	宇原 弘晃	南条中学校
委 員	谷口 広憲	明道中学校
委 員	和田 重	灯明寺中学校
委 員	稲田 彩乃	東陽中学校
委 員	秋田 達也	明倫中学校
委 員	松田 洋佳	足羽一中学校
委 員	岩田 恭平	成和中学校

リーディングテスト委員会（嶺南）

職	名前	学校名
委 員	稲田さとみ	美方高校
委 員	水谷 友梨	若狭高校
委 員	山口 貴美	敦賀高校
委 員	安井 智子	美浜中学校
委 員	澤田 更紗	若狭高校

リサーチ委員会

職	名前	学校名
委 員 長	水木 毅	武生東高校
委 員	清水 慈昭	羽水高校
委 員	河合 伸介	羽水高校
委 員	松見 理香	武生東高校
委 員	鋸村 明	武生東高校
委 員	橋本 千宙	羽水高校

TEFL委員会

職	名前	学校名
委 員 長	大橋 夕紀	若狭高校
委 員	牧野 剛士	敦賀高校
委 員	青山 真弓	藤島高校
委 員	三仙 真也	藤島高校
委 員	百田 忠嗣	松陵中学校
委 員	黒川 昌平	三方中学校
委 員	山口 貴美	敦賀高校
委 員	本田 涼也	若狭高校
委 員	山本 由貴	角鹿中学校
委 員	利内 美樹	気比中学校

◆リーディングテスト委員会

委員長 澤 田 亜 紀（足羽中学校）

<委員の先生方の活躍>

今年度、リーディングテスト委員会は、問題作成者に新たに5名の先生をお迎えし、スタッフ5名、問題作成者16名（嶺北11名、嶺南5名）、計21名でリーディングテストの作成に取り組んでいます。働き方改革の声が高まる中、時間外にも関わらずご協力してくださった先生方には感謝がありません。嶺北リーディングテスト委員会では、5月～7月、8月～11月、12月～3月を開催期間とし、3週間から1ヶ月に1回のペースで検討会議を行っています。嶺南リーディングテスト委員会では、8月から12月にかけて、月1回のペースで検討会議を行いました。どちらの先生方も会議と会議の間にメールでのやり取りを行うことで、毎回の検討会議の話し合いを大変スムーズに行うことができました。今後も、先生方のご負担が少しでも小さくなるようにと、会議の日程や時間について検討していきたいと思います。

<リーディングテスト委員会の活動の様子>

リーディングテスト委員会の検討会議は、グループごと（A：中学1年生、B：中学2年生、C：中学3年生）に分かれ、チーフの先生を中心とし、終始和やかな雰囲気で進められています。委員の中には、鋭い視点で素晴らしい問題を作成してくださる先生が多くいらっしゃいます。また、どの先生も、書籍やウェブサイト、ご自身の経験などから、生徒が興味を持ちそうなトピックを取り上げ、よりメッセージ性の高い問題を作成してくださっています。

すべてのグループに、中学・高校の先生、経験年数の長い・短い先生がおり、検討会議の場は、校種を超えた貴重な意見交換の場にもなっています。リーディングテスト作成の技術は、英語教員に欠かせません。どの先生方も自己研鑽を兼ねて、リーディングテスト作成に尽力してくださっています。リーディングテスト作成に興味のある方、校種・時期を問わず、いつでも大歓迎です。

<リーディングテストについて>

リーディングテストを作成するにあたり大切にしていることは、読み手である生徒に送るメッセージです。生徒に興味を持ってほしいこと、考えてほしいこと、気づいてほしいこと、学んでほしいこと、などを伝えられるような問題作成を心がけています。そして更に、これらのメッセージの読み取りを期待して、設問を作成しています。設問については下のような視点を大切にしています。

- ・本文に書かれた情報を整理するもの（語彙や新出の言語材料を理解しているか確認）
- ・ストーリーの流れを推測するもの（文字情報からその後の流れを推測できるか確認）
- ・述べられている状況を絵で選ぶもの（文字情報から場面をイメージできているか確認）
- ・メッセージを読み取るもの（筆者や登場人物が英文を通して伝えたいことをつかめたか確認）

また、現場で活用しやすくするために、各回のテスト範囲を、Unitごとに設定しています。テスト範囲のページ番号を各テストに記載してありますので、授業の進度に合わせて利用しやすくなっています。また、昨年度より「全範囲」というテスト範囲をなくし、テスト範囲をより細かく設定したことで、より使用しやすくなったのではないかと思います。

<Let's Read について>

リーディングテスト委員会では、過去のテストを冊子にした Let's Read (A～C) を作成しています。毎年改定を行っており、教科書改訂に伴う新出語句や文法事項の配列、トピックの精選にも気を配っています。ぜひ、採用をご検討ください。

<リーディングテスト委員から一言>

○リーディングテスト委員会に参加すると、中高問わず人脈が広がり、自身の英語力を向上させたり世代を超えたつながりを作ったりすることができます！ (足羽第一中 松田洋佳)

○リーディングテスト委員会に参加させて頂き、2年目になります。テスト作成の過程で、様々な先生方の考えに触れることができ、自己研鑽になっていると感じます。(灯明寺中 和田 重)

○1年ぶりに参加させていただいて、テスト作成について様々な視点を得られるので本当に勉強になります。また、最初の実案が検討を重ねる度に英文が洗練されていく様を見るのもワクワクします。(明道中 谷口広憲)

○複数の先生方と共にテストを作るという経験は、普段の現場ではできないので、いつも良い刺激をもらっています。アイデアを共有することで、普段の定期テストの長文も少しずつ作りやすくなりました。(南条中 宇原弘晃)

○昨年に引き続き、今年も参加させていただきました。毎回の会議で得られるフィードバックが本当に勉強になり、学校での試験作成などにも生かすことができます。会議の雰囲気もよく、授業における悩みなども共有しやすい環境です。今後も続けていきたいです。

(足羽中 伊藤江莉奈)

○小規模校に勤めており、英語科教員が1人しかいないのですが、リーディング委員会では他校の先生方と協力してテストを作ることができます。会議では長文問題を作るヒントがたくさんいただけます。生徒のための問題作り委員会ですが、教員にとっても学びの多い機会です。

(殿下中 山内翔太)

○リーディング委員会の先生方にはいつも適切なアドバイスをいただき、勉強させていただいています。他の先生方の英文を見て、私もいつかこんな問題を作りたい、こんなメッセージを伝えたい、と思うようになりました。1年間ありがとうございました。(越廼中 濱下恵理子)

○リーディングテスト委員会に関わらせていただいて4年目になりますが、毎年、毎回新しい発見があります。中学校・高校の先生方と話し合いをする中で、このような文章構成がよい、この表現がよい、と次にも生かすことができることを学ぶことができます。リーディングテストを読むことで英語をもっと学びたい、世界を知りたいと思う中学生が増えるとうれしいです。

(若狭高 水谷友梨)

○委員の先生方、お疲れ様でした。他の先生方の原稿を読み、また自分の原稿を読んでいただく中で、自分の問題作成のスキルアップを実感しています。ただ、他の先生の原稿の直しについて、まだまだなので、だんだんとうまくなれるようになっていけるといいなあと思っています。

(美方高 稲田さとみ)

○今年度でリーディング委員会に参加して5年目になりますが、この委員会で培った力を定期考査の問題作成等で活かすことができていると実感しています。(敦賀高 山口貴美)

○高校の先生方と中学校の先生方が交流できる良い場になっています。「高校の先生方はこのような点に気をつけて指導されているのだ。」とか「中学校ではこう教えています。」ということを話

すのはとても有意義です。またRT委員会に入っていない先生や、生徒たちからリーディングテストの問題や、Let's Readの問題は読んでいて面白いから読もうと思う、と言われることが多いです。ただ英語の問題を解くために読むのではなく、一つの読み物として読める教材なので、子どもたちは感動したり、新しいことを知ってびっくりしたり、世界を広めたりしているようです。そういうことを聞くと来年も子どもにこんなことを知ってもらいたいって思いながら、作ろうかな、と思います。

(美浜中 安井智子)

【今年度新メンバーより】

○高校1年生の学習履歴を知りたくて始めました。中学校教科書の内容と表現の豊かさに驚いています。

(大野高 山口直孝)

○今年度、リーディングテスト委員会に参加させていただいて、英文の中でのメッセージ性の持たせ方を意識できるようになってきたかな、と思っています。「このフレーズを使って生徒に読ませたい」「こんなメッセージを生徒に伝えたい」ということを考えながら英文を考えることで、微々たるものかも知れませんが、英文をつくる力を伸ばすことができたのではないかと感じています。他の先生方がつくる英文を読んだり、アドバイスをいただきながら自身の英文を考えたりすることで、より良い英文の作成を目指してチームとして協働できたことは本当に良かったと思います。

(明倫中 秋田達也)

○リーディングテスト委員会に参加させて頂き、テストの検討を繰り返す中でたくさんのことを教えて頂きました。そのことはテストや教材の作成においても役立つことが多々ありました。また、テストの作成を通して先生方に教えて頂いたこと、活動を通しての気づきを授業に活かし、目の前の子どもに返すことができたと思います。

(成和中 岩田恭平)

○「よい英文とはなにか」「よい設問とはなにか」ということを深く考える機会になりました。初めての経験だったのですが、他の先生方からたくさんのアドバイスをいただき、0から作り上げること、そして学ぶことの楽しさを感じています。

(東陽中 稲田彩乃)

◆リサーチ委員会

委員長 水 木 毅（武生東高校）

リサーチ委員会では、本年度も高校生向け読解スキル育成プリント教材 "READING FOR MESSAGE" を作成し、SKIMMING・SCANNING・GUESSING を1組として、7月・9月・12月の年3回お届けしました。お陰様で7校751部のご採用をいただきました。以下は本年度の各教材の概要です。

◇SKIMMING

- I 過去へとタイムスリップした男（1021語）
- II 「情けは人のためならず」（981語）
- III クリスマスイブの驚くべき出来事（1112語）

◇SCANNING

- I サイクリングツアーの申し込み
- II 夏のイギリスの天気予報
- III カナダの語学学校のホームページ

◇GUESSING

- I
 - 1. 語の説明からの語の推測（記述式）3題
 - 2. 笑い話の状況理解（4択）3題
 - 3. 文章中にある難語の意味類推（4択）2題
- II
 - 1. 語の説明からの語の推測（記述式）3題
 - 2. 笑い話の状況理解（4択）2題
 - 3. 文章の要旨理解（4択）1題
- III
 - 1. 語の説明からの語の推測（記述式）3題
 - 2. 笑い話の状況理解（4択）3題
 - 3. 文章中にある難語の意味類推（4択）2題

本年度も、プリント教材の他に過去問を精選して作成した冊子“READING FOR MESSAGE”を発行し、6校964冊のご採用をいただきました。各校からの情報によると、冊子は2,3年生を対象に、授業中に読ませたり、週末・長期休業中の課題にしたりしている学校が多いようです。また、プリント教材と同様に、扱っている題材やクイズ感覚で取り組める問題の面白さを評価していただいています。市販の問題集ではまず目にすることのないオーセンティックな英文を提供していると自負しております。また、3年前に再改訂を行っています。今後とも、よりよい教材作りを目指していきますので、プリント教材・冊子共にご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

◆TEFL 委員会

委員長 大 橋 夕 紀 (若狭高校)

今年度の TEFL 委員会では、「スピーキング力の育成と評価のあり方について」をテーマに活動を進めています。4技能統合型の授業や、生徒の英語力をバランスよく伸ばす手立て、と言ったフレーズは現行学習指導要領施行後、耳慣れてきたフレーズです。以前に比べると、どの学校でもスピーキングによるパフォーマンステストが行われる機会は増えていると思います。しかし、委員会の中では、各学校で自分たちが行っているパフォーマンステストの「評価基準・規準」、「行う時期」、「時間のかけ方」などが妥当であるのかという疑問が湧いてきました。スピーキングによるパフォーマンステストの在り方について、自分たちの疑問点に答えを見つけようと以下のことに取り組んでいます。

- ・関連文献に目を通し、お互いにレポーティングし合う。
- ・各学校のスピーキングテストの評価基準を持ち寄り、比較・検討する。
- ・中学校・高校のグループに分かれ、スピーキングテストのモデルケースを考える。

Bridging については、今年度は一部修正し、発刊する予定です。Bridging がより良いものとなるよう、Bridging に関してご意見等ありましたら、どんなことでも委員もしくは委員長あてに言っていただけると幸いです。

TEFL 委員会は、嶺南を中心に活動しています。今年度は新メンバーにも恵まれました。中学校教員と高校教員が活発に意見交換し合える場であることが強みです。自らの日々の教育活動に TEFL 委員会活動の内容をフィードバックするとともに、合本を通して福井県の英語の先生方に少しでも有益な研究内容を報告できればと考えています。

〈2019年度 TEFL 委員会 委員（50音順）〉

青山 真弓 (藤島高校)	大橋 夕紀 (若狭高校)	黒川 晶平 (三方中学校)
三仙 真也 (藤島高校)	本田 涼也 (若狭高校)	牧野 剛士 (敦賀高校)
百田 忠嗣 (松陵中学校)	山口 貴美 (敦賀高校)	山本 由貴 (角鹿中学校)
利内 美樹 (気比中学校)		